

# 若者定住に関する提言書



(岩手山・チャグチャグ馬コの里・滝の沢)

令和4年3月30日

滝沢市議会

# 目 次

I	はじめに	P 2
II	調査の方法	P 3
III	調査の経過と内容	P 4
IV	提言	P 25
V	おわりに	P 28
	添付資料	P 31

## I はじめに

滝沢市議会では、二元代表制の下、議事機関として市民の負託に応えるため、議会活動の基本原則を定めた「滝沢市議会基本条例」を平成26年1月に制定した。

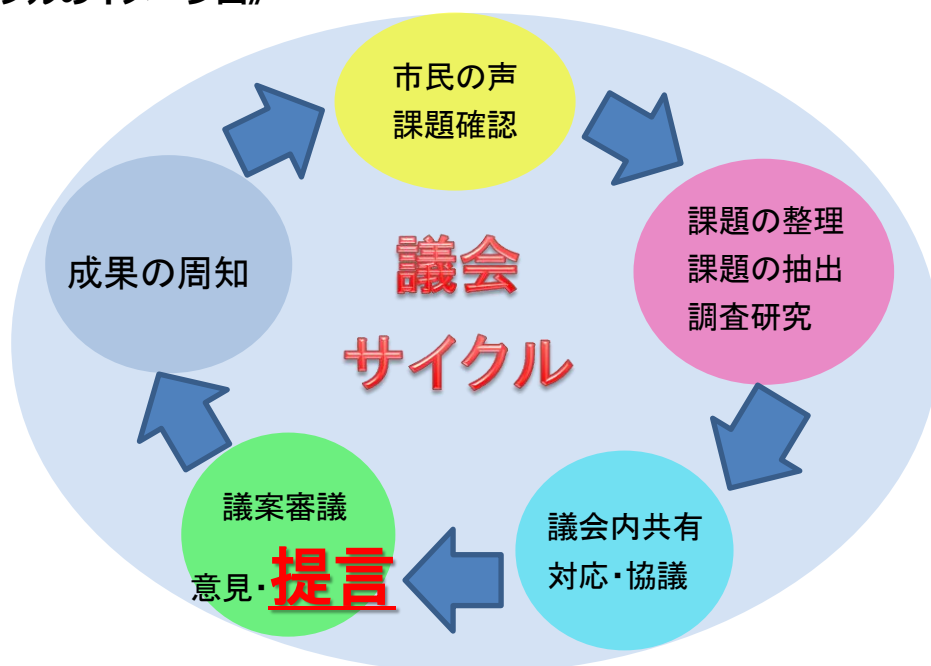
滝沢市議会基本条例第3条では、「市民の多様な意見を把握し、政策立案及び政策提言に努めること」としており、当市議会でもその仕組みづくりについて検討を重ねてきたところである。

その後、市民の声や議員活動などから得た「市の課題」について、その解決策等を調査研究しながら市当局に対して「政策提言」を行い、その後の取り組みをチェックしながら、議会の提言がどの程度予算や事務事業に反映されたのかという「成果」を市民の皆さんに分かりやすく伝えることを目的として、平成30年度に「議会サイクル」を構築した。

翌年、令和元年8月に就任した日向清一議長の議長所信表明において、「議会サイクルの実施に向けた具体的な活動の検討」が示され、議会運営委員会で協議を重ねた結果、政策提言に向けた課題抽出にあたっては、議会全体として足並みをそろえた取り組みを行っていくことを決定した。

その後、各常任委員会が行う調査研究（所管事務調査）の共通テーマに、第1次滝沢市総合計画後期基本計画の展開戦略として掲げる柱の1つである「若者定住」を設定し、調査研究を行いながら、政策提言を行うこととした。

### 《議会サイクルのイメージ図》



- ① 市民の声から「市の課題を確認すること」から始まります。
- ② それらの課題を整理し、議会として着手すべき課題等を抽出し、解決策等を調査研究します。  
(常任委員会による所管事務調査など)
- ③ その調査研究の内容を議会内で共有し、対応策等を協議します(議会運営委員会・全員協議会)。
- ④ その中から必要があると判断したものは、市当局に「政策提言」を行い、その後の取り組みや予算案等にどの程度生かされたのか、議案審議等を行います。
- ⑤ 最後に、議会の提言がどの程度予算や事務事業に反映されたのかという「成果」を市民に分かりやすく伝えます。議会としては、このサイクルを常に意識し、政策提言の実現を図っていきます。

## II 調査の方法

令和2年3月4日に開催した議会運営委員会において、「若者定住」を共通テーマとして総務教育・環境厚生・産業建設の各常任委員会で所管事務調査に取り組むことを決定し、若者定住を促進するために必要と思われる取り組みを仮説として立てた上で（表）、政策提言に向けた調査研究に取り組むこととした。

（表）

●若者が定住を決める際の判断材料と考えられる3つの要素					
3つの要素		備考	必要な取り組み	関連する総合計画上の取組	所管する委員会
①仕事	将来就きたい職場が近場にある	滝沢市近郊に様々な職種・職場が必要となる。 また、様々な職種があることを周知する必要がある。なお、職場は滝沢市内に限る必要はない。 盛岡で働き滝沢に住む…逆もありうるがそれでは意味がなく、滝沢市内にあればベストである。	既存産業の充実	地域産業の振興	産業建設
			新規産業・職種の開発	民間企業等との連携協定	産業建設
②愛着	滝沢が好き	滝沢市に関わっている期間内（小学生から大学生）に、愛着心を芽生えさせる必要がある。	義務教育期間における愛着心の醸成	教育機関との連携	総務教育
			大学在学時における愛着心の醸成（滝沢の大学に通い初めて滝沢に関わる学生が対象）	地域への愛着心の醸成	総務教育
③暮らしやすさ	滝沢が暮らしやすい	若者が「暮らしやすい」と感じる要素をピックアップし、それらの充実を図る必要がある。	出会いの場の創出		総務教育
			子どもを育てる環境の充実	子どもや子育て世代への支援	環境厚生
			一生住み続けたい様々な住環境の充実	住環境の整備	産業建設
●市民からの意見聴取					
実施手法	アンケート	【対象】当事者と思われる関係団体			議会運営
	意見交換会	【対象】盛岡大学、岩手県立大学の学生			議会運営

### Ⅲ 調査の経過と内容

#### 1 総務教育常任委員会による調査の内容

##### (1) 調査事項

若者による課題掘り起こし及び魅力発見の取組について

##### (2) 調査理由及びその目的

「たきざわ幸福実感アンケート報告書（R1年度）」によると、多くのふれあいの機会があり、人間関係が良好であると感じている人の割合は経年比較では再度上昇傾向にあるものの、そう感じていない人の割合を常に下回っている状況である。また、本市に愛着がある人の割合は、ゆるやかな減少傾向にある。

滝沢市総合計画後期基本計画の展開戦略の1つに掲げている「若者定住」を促進するためにも、地域・人とのつながりを魅力とした取組（若者による課題掘り起こし）及び滝沢市に愛着を持てるような取組（魅力発見）は一層強化する必要があるため、調査研究を行うものである。

##### (3) 調査の経過

開催日	内 容
令和2年7月30日（木）	【委員会内協議】 所管事務調査項目を「若者による課題掘り起こし及び魅力発見の取組について」と決定し、調査の目的等を共有した。
令和2年8月4日（火）	【委員会内協議】 事業内容を確認し、当局への質問事項について協議した。
令和2年8月19日（水）	【企画政策課への事務調査】 <内容> ・タキザワコレカラカイギ、学連携等の取組 ・職員自体の地域愛着形成の取組 【地域づくり推進課への事務調査】 <内容> ・若者と地域のつながりづくり ・職員自体の地域愛着形成の取組
令和2年9月4日（金）	【委員会内協議】 滝沢市PTA連絡協議会へアンケートを実施することとし、アンケート内容を協議した。（※P32：資料1参照）
令和2年10月20日（火）	【委員会内協議】 アンケート集計結果について共有した。 （※P32：資料1参照）
令和2年10月23日（金）	【委員会内協議】 当局への質問事項について協議した。

令和2年11月6日（金）	<p><b>【生涯学習スポーツ課への事務調査】</b></p> <p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びプランの進捗</li> <li>・基本施策2-1 社会教育を基盤とした「人・つながり・地域づくり」の今後の展開</li> </ul> <p><b>【文化振興課への事務調査】</b></p> <p>&lt;内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝統文化の継承状況</li> <li>・伝統文化の発表の機会</li> <li>・親子が参加できる魅力発見ツアー</li> <li>・昔の農機具紹介</li> </ul>
令和2年11月12日（木）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>捉えた課題、解決策等について協議を行った。</p>
令和2年11月20日（金）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>捉えた課題、解決策等について協議を行った。</p>
令和2年12月4日（金）	<p><b>【現地調査】</b></p> <p>民具保管庫、埋蔵文化財センターを調査した。</p>
令和2年12月11日（金）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>捉えた課題、解決策等について協議を行った。</p>
令和2年12月25日（金）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>報告書の内容に係る協議を行った。</p>
令和3年1月18日（月）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>報告書の内容に係る協議を行った。</p>
令和3年1月29日（金）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>報告書の内容に係る協議を行った。</p>
令和3年2月10日（水）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>報告書の内容に係る協議を行った。</p>

#### (4) 考察

本市の総合計画後期基本計画の展開戦略である「若者定住」促進のためには市の課題の掘り起こし及び市の魅力を発見して周知することが必要である。特に若者自身が課題を掘り起こし、魅力を発見することで、人とのつながりを構築し、滝沢に愛着を持ち、滝沢に住みたい、戻って暮らしたいという気持ちにつながっていくものと考えられる。

以下、アンケート調査結果（※P32：資料1参照）も踏まえて若者による課題掘り起こしの取組と若者による魅力発見の取組に分けて考察していく。

##### ア 若者による課題掘り起こしの取組

若者が地域の課題を捉え、その解決策について考える機会として、地域人材育成・交流事業や学連携事業等がある。

しかし、若い社会人は仕事や子育てで多忙であり、地域づくりに参画する余裕がないためか、地域づくりに消極的な考え方もあることがうかがえる。多忙な若者が地域づくり活動に参加しやすい取り組みが必要である。

地域づくり活動に携わっている団体等は様々あるが、自治会連合会や市内小中学校全12実践区、地域づくり懇談会等の活動メンバーの重複や活動内容に類似性がみられる。このことから、負担軽減を検討し、教育振興運動と地域づくり活動の連動性を持ちながら、学校・PTA・自治会・事業所・団体等が相互に連携し、対話による課題の掘り起こし、共有、解決策まで見出すことが今後求められる。そのためには、庁内の連動と連携が必要である。

また、タキザワコレカラカイギの参加者やインターシップ等の学生に、定住につながる意見を求めていくことも重要と考える。

##### イ 若者による魅力発見の取組

本市を知る機会が不十分であることにより、地域人材育成・交流事業において企画されたツアーの継続や、新たな滝沢の魅力発見親子ツアーの企画、滝沢にしかない伝統文化を観る機会や参加する機会を増やすことが必要である。また、市内の遺跡や地域の由来を知ってもらうことなども新たな魅力発見につながると考える。

さらに、伝統文化の伝承と保存も重要である。発表の場を増やし、財政支援等を行うことにより、今後の活動がさらに活発になり、子どもたち、若者世代へ意欲的に伝承されると思われる。CD、DVDなどのデジタル媒体を用いることにより、確かな伝承が期待され、着実な保存が可能であり、PR活動にも活かすことができる。

滝沢市埋蔵文化財センターについて、体験コーナーの充実、埋蔵文化財をビッググループ滝沢に展示するなど、多くの市民に知ってもらう工夫が求められる。古代の滝沢での生活ぶりを理解することで歴史の面白さや素晴らしさを感じてもらい、魅力発見につなげ、観光と両輪で進めることも大事であると考えられる。

旧公民館ホールを活用した民具保管庫は、江戸時代から昭和40年代に使用されてきた農具や生活用具を中心に展示され「小中学生の学びの場」として活用されて

いるが、展示の工夫や民具の劣化防止をする必要がある。

本市にはあまり住民に知られていない「カワシンジュガイ」の生息地や各地域から見える岩手山麓の風景など沢山の自然の魅力があるため、魅力の発見に止まらず、発信も重要である。滝沢市に愛着を持ってもらうために、各自治会から地域の魅力を発信してもらうことや、若者による魅力発見の写真展や動画コンテストの開催など、積極的な取組が必要である。

また、他県の若者に対し、滝沢の情報や自然の豊かさをSNS等で発信することにより、UターンやIターンにもつながると考える。

「滝沢ふるさと会」は本市の発展に寄与することを目的として平成21年度に設立され、140名ほどの会員数である。近年、会員の高齢化と若者世代が少ないことが課題となっている。若い人にも参加してもらうための工夫（ツアー企画の拡大等）、会員による本市の魅力の発信、企画へ参画してもらう機会づくりが必要である。

最後に、何より、市職員が本市を十分に知っているか、愛着を持っているか、愛を持って住民に接しているかが問われる。

若者定住に関する取組は、庁内での連携を密にしながら横断的な政策・施策を講じなければならないため、横断的な部署「若者定住課（仮称）」を新たに設置し、若者定住に向け総合的な計画策定を早急に進めるべきと考える。



## 2 環境厚生常任委員会による調査と内容

### (1) 調査事項

若者定住に向けた子育て環境（保育）について

### (2) 調査理由及びその目的

滝沢市総合計画後期基本計画に掲げる若者定住の実現、特に子育て世代の定住には安心して子どもを預けられる環境の整備が必要不可欠である。令和元年10月から保育料無償化が始まり、保育の需要が更に高まっている。その一方で、保育の現場では近年、保育士が不足し保育児童の受け入れ数を増やせないという事情を抱えている。

このような状況から、子育て環境の整備を目的に保育施設における保育士確保の支援方策について調査研究を行うものである。

### (3) 調査の経過

開催日等	内容
令和2年6月19日（金）	<b>【委員会内協議】</b> ＜協議の概要＞ 具体的な調査内容及びスケジュールを決定した。
令和2年7月10日（金） 担当課：健康福祉部児童福祉課	<b>【担当課の事務調査】</b> （※P33：資料2参照） ＜調査の目的＞ 本市の待機児童及び保育士不足の実態を確認することを目的に、担当課に対し説明聴取を行った。 ＜調査の内容＞ ・待機児童の実態について ・保育士不足の実態について ・若者定住に向けた施策について
令和2年7月30日（木）	<b>【委員会内協議】</b> ＜協議の概要＞ 担当課の事務調査を踏まえ、課題や今後の調査の方向性について協議した。
令和2年8月20日（木）	<b>【委員会内協議】</b> ＜協議の概要＞ 関係者意見聴取として、保育施設からの意見聴取を実施することに決定した。
令和2年8月28日（金）	<b>【委員会内協議】</b> ＜協議の概要＞ 保育施設からの意見聴取の実施方法及び内容について協議した。

<p>令和2年9月4日（金）</p>	<p><b>【委員会内協議】</b>          &lt;協議の概要&gt;          保育施設からの意見聴取の聞き取り事項について協議した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育士不足の現状</li> <li>・地元大学への保育士募集活動やPRの取組</li> <li>・保育士宿舍借り上げ支援事業</li> <li>・考えられる保育士確保の取組</li> <li>・待機児童対策</li> </ul>
<p>令和2年9月11日（金）          場所：各法人事務所          相手方：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①社会福祉法人滝沢市保育協会 3名</li> <li>②学校法人大釜学園 2名</li> <li>③学校法人撫子学園 5名</li> <li>④社会福祉法人鶴山記念会 2名</li> </ul>	<p><b>【関係者意見聴取】（※P34：資料3参照）</b>          &lt;意見聴取の目的&gt;          保育施設における保育士不足の現状及び保育士確保の取組を確認することを目的に、保育施設を運営する法人から意見聴取を行った。</p>
<p>令和2年9月11日（金）</p>	<p><b>【委員会内協議】</b>          &lt;協議の概要&gt;          関係者意見聴取の聞き取り内容を確認し、今後の調査方針について協議した。</p>
<p>令和2年10月7日（水）</p>	<p><b>【委員会内協議】</b>          &lt;協議の概要&gt;          課題を重点項目3点に絞り調査を進めることに決定し、それぞれの具体的な調査方法について協議した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重点項目①：保育士確保のための支援事業</li> <li>・重点項目②：ニーズの多い地域への小規模保育施設の検討</li> <li>・重点項目③：保育施設のICT化促進等</li> </ul>
<p>令和2年10月20日（火）</p>	<p><b>【委員会内協議】</b>          &lt;協議の概要&gt;          関係者意見聴取として、盛岡大学・盛岡大学短期大学部からの意見聴取を実施することに決定した。</p>

<p>令和2年10月27日（火） 場所：盛岡大学 相手方： ①文学部児童教育学科 学生4名、担当教員1名 ②短期大学部幼児教育科 学生3名、担当教員1名</p>	<p>【関係者意見聴取】（※P36：資料4参照） ＜意見聴取の目的＞ 保育士を志す学生の就職活動における視点等を確認することを目的に、盛岡大学・盛岡大学短期大学部から意見聴取を行った。</p>
<p>令和2年11月4日（水）</p>	<p>【委員会内協議】 ＜協議の概要＞ 関係者意見聴取の内容を確認し、課題とその解決策について協議した。 盛岡市への行政視察を実施することを決定した。</p>
<p>令和2年11月13日（金） 場所：盛岡市役所 視察先担当課： 子ども未来部子育てあんしん課</p>	<p>【行政視察】（※P37：資料5参照） ＜視察の目的＞ 保育所待機児童対策の先進事例を調査研究するため、待機児童数ゼロを実現している盛岡市へ行政視察を行った。 ＜視察のテーマ＞ ・保育所待機児童解消のための施策について</p>
<p>令和2年11月20日（金）</p>	<p>【委員会内協議】 ＜協議の概要＞ 盛岡市への行政視察の内容を確認し、本市の課題とその解決策について協議した。</p>
<p>令和2年11月27日（金）</p>	<p>【委員会内協議】 ＜協議の概要＞ 担当課の事務調査を実施することに決定した。</p>
<p>令和2年12月2日（水） 担当課：健康福祉部児童福祉課</p>	<p>【担当課の事務調査】 ＜調査の目的＞ 本市の待機児童対策として考えられる解決策の現状を確認することを目的に、担当課に対し説明聴取を行った。 ＜調査の内容＞ ・保育士確保のための支援事業 ・ニーズの多い地域への小規模保育施設の検討 ・保育施設のICT化促進</p>

令和2年12月11日（金）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>担当課の事務調査の内容を確認し、課題とその解決策について協議を行った。</p> <p>これまでの調査を踏まえ、調査報告の内容を協議した。</p>
令和3年1月15日（金）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>これまでの調査を踏まえ、調査報告の内容を協議した。</p>
令和3年1月29日（金）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>これまでの調査を踏まえ、調査報告の内容を協議した。</p>

#### （4）考察

本市の保育に関する子育て環境は、待機児童が解消されない状況が続いている。その要因の一つである「保育士の確保」は、その改善と密接に関連している。また、このことは、本市の重要な政策の柱である「若者定住」につながる。

一方、保育士を目指す若者は、その職場環境に注目し、隣接する盛岡市の保育施設の待遇がその就職先の選定に大きく影響している。

このことから、保育士確保のため、以下の取組が重点課題であると考え。併せて、待機児童の解消に向けた小規模保育事業所の開設も必要と考える。

##### ア 保育士確保のための支援策

###### （ア）保育士宿舍借り上げ支援事業の充実

保育事業者に対し、保育士用のアパート等を借り上げる費用の一部補助を令和元年度から本市も開始したものの、継続的かつ十分な支援金（予算）の確保が保育施設の募集要項等に反映されなかった経緯があることから、この点に留意した対応を行うことが必要と考える。

###### （イ）保育士奨学金返還支援

一部の園では既に独自支援策として実施しているが、盛岡市では「保育士奨学金返還支援補助事業」（市単独補助事業）として取り組んでいる。このことから、本市においても同様の支援策が必要と考える。

###### （ウ）若手保育士等処遇改善

一部の園では既に独自支援策として実施しているが、盛岡市では「若手保育士等処遇改善事業」（市単独補助事業）として取り組んでいる。本市の園での実施は少なく、このことから本補助事業による支援が必要と考える。

(エ) 就活生を対象とした園見学バスツアー

職場環境を実際に見る機会は、就活生にとって重要な要素であることが、学生からの聞き取りで判明した。また、募集する園側でもその重要性を認識している。このことから、募集を行う園と就職活動を行う学生の双方にメリットがある園見学ツアーを市が支援して開催することが有効と考える。

(オ) 園内事務のICT化

園の事務効率化のためのICT化は、保育士の事務負担軽減に繋がるとともに、本来の保育業務に専念できるため、就職活動をする学生の判断基準の一つの要素となっている。このことから、ICT化を促進する支援の取組が必要であると考えます。

イ 小規模保育所施設の開設

本市においては待機児童の多くが1歳児又は2歳児である。また、将来的には保育児童が減少していくことが想定される。待機児童数ゼロを達成している盛岡市でも将来の保育児童減少を想定し、出口戦略としても有効な小規模保育事業所を積極的に展開していた。

待機児童対策は急務であるが、本市においても将来の人口減少期を見据えた施策として小規模保育事業所による保育の受け皿確保を図る必要があると考える。

### 3 産業建設常任委員会による調査と内容

#### (1) 調査事項

若者定住のための生活基盤と産業基盤の整備について

#### (2) 調査理由及びその目的

全国的に人口減少時代を迎える中、本市も近い将来、高齢化、生産年齢人口の減少による様々な影響が想定される。

そのため「若者の受け皿確保」対策として、空き家の有効的な活用方法、及び本市の特色であるIT産業や農業等の地域産業の活性化による新規雇用の創出について調査研究するものである。

#### (3) 調査の経過

開催日等	内容
令和2年5月22日(金)	<b>【委員会内協議】</b> <協議の概要> 調査項目設定のための協議を行い、委員会としての視点の確認、調査スケジュールの確認を行った。
令和2年6月9日(火)	<b>【委員会内協議】</b> <協議の概要> 後期基本計画より、都市整備部門の政策、基本施策、施策を1つずつ確認し、「若者定住」に重要な施策、関連する事業の抽出を行った。
令和2年6月11日(木)	<b>【委員会内協議】</b> <協議の概要> 後期基本計画より、経済産業部門の政策、基本施策、施策を1つずつ確認した。
令和2年6月19日(金)	<b>【委員会内協議】</b> <協議の概要> 後期基本計画より、経済産業部門の「若者定住」に重要な施策、関連する事業の抽出を行った。

<p>令和2年7月3日（金）</p>	<p><b>【担当課への事前調査（正副委員長）】</b></p> <p>&lt;調査の目的&gt;</p> <p>委員会内協議で抽出した各事業の実施状況及び「若者定住」との関連性を確認することを目的に、担当課に対し正副委員長による説明聴取を行った。</p> <p>&lt;調査の内容&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済産業部の所管事業</li> <li>・都市整備部の所管事業</li> </ul>
<p>令和2年7月17日（金）</p>	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>7月3日の聴取事項を基に、調査する事業の選択を行った。</p>
<p>令和2年9月4日（金）</p>	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>調査のスケジュールを協議し、所管事務調査項目設定シートを作成した。</p>
<p>令和2年10月2日（金）</p>	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>担当課への事務調査の必要性を確認し、委員会で事業担当課より内容聴取を行うことを決定した。</p> <p>また、担当課への聴取内容の協議を行った。</p>
<p>令和2年10月9日（金）</p>	<p><b>【担当課への事務調査】</b></p> <p>&lt;調査の目的&gt;</p> <p>調査対象とした各事業の現状と課題を確認することを目的に、担当課に対し説明聴取を行った。</p> <p>&lt;調査の内容&gt;</p> <p>（都市政策課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家対策推進事業について</li> <li>・公園維持管理事業について</li> </ul> <p>（企業振興課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致事業について</li> </ul> <p>（農林課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規就農対策事業について</li> </ul> <p>（都市政策課）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画総務事務について</li> </ul>

令和2年11月6日（金）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>「新たに明らかになったこと」「更に調査が必要なこと」について協議を行った。</p> <p>担当課の事務調査で聴き取りを行った全ての事業を最終報告に入れることを決定した。</p>
令和2年11月12日（木）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>各事業実施後の“あるべき姿”やそのための課題解決策についての協議を行った。</p>
令和2年11月20日（金）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>前回協議を踏まえ、実際に委員会の解決案について、若者から意見を聴取する必要性を確認し、県立大学生を対象に市民懇談会を申し込むことを決定した。</p>
令和2年12月3日（木）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>懇談会開催方法、内容、資料等についての協議を行い、オンライン会議システムを活用しての懇談会を申し込むことを決定した。</p>
令和2年12月11日（金）	<p><b>【オンライン会議テスト】</b></p> <p>実際に懇談会当日使用予定のオンライン会議システムを使用し、通信環境、使用方法の確認を行った。</p>
令和3年1月6日（木）	<p><b>【委員会内協議】</b></p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>市民懇談会のタイムスケジュール及び資料の内容確認を行った。</p>



令和3年1月14日（木）	<p>【市民懇談会】（※P37：資料6参照）</p> <p>&lt;懇談会の目的&gt;</p> <p>学生と意見交換をすることにより本市の現状と課題を把握の上、今後の滝沢市の若者定住に資するため。</p> <p>&lt;懇談会のテーマ&gt;</p> <p>「若者定住について」</p>
令和3年1月25日（月）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>学生との懇談会の振り返りを行った。</p> <p>併せて、報告書作成のスケジュールについて協議を行った。</p>
令和3年2月1日（月）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>各委員がまとめた内容について協議を行った。</p>
令和3年2月10日（水）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>報告書の字句の調整を行った。</p>
令和3年2月16日（火）	<p>【委員会内協議】</p> <p>&lt;協議の概要&gt;</p> <p>報告内容についての意思決定を行った。</p>

#### （4）考察

全国的に人口減少時代を迎える中、本市も近い将来、高齢化、生産年齢人口の減少による様々な影響が想定される。令和2年、新型コロナウイルス感染症がもたらした世界的パンデミックは、オフィスワークからリモートワークへの変化を急速に拡大させた。その結果、東京一極集中社会から地方分散型社会、企業の多拠点化に変換していくことが想定される社会情勢を踏まえ、産業建設常任委員会は、「若者の受け皿確保」対策についての調査研究を行った。

当委員会では、滝沢市第1次総合計画後期基本計画の各施策及び事業を分析し、若者定住をより促進させるための事業を「空き家対策推進事業」「公園維持管理事業」「企業誘致事業」「新規就農対策事業」「都市計画総務事務」の5つに絞り、重点的に研究を行った。以下順にその現状と課題及び解決策について述べる。

##### ア 空き家対策推進事業

市では、令和2年度より空き家バンクを活用し始め、法定協議会設立のための条例整備、空き家対策計画の策定等を予定し、空き家対策を推進している。

しかし、生活する上で必要となる学校、病院、スーパーマーケット等周辺環境の調査は行われず空き家バンクにはこれらの情報が含まれない。

若者でも手に入れやすい比較的低廉な空き家では、周辺環境情報を含めたデータの集積と発信を充実させることで若者自身が空き家をリフォームしたサテライトオフィスや若者が集える空間を整備することを想像させ、人口の流入に繋がると考えられる。

市には、地域ごとの活用方法の計画立案、交流の場としての空き家活用、定住を目的とした支援策、企業への情報提供、リフォームに係る補助金等の支援を積極的に展開することが求められる。

現在の空き家対策推進事業では、これらへの適用性が見られないことから、今後の空き家対策計画の中で、全体的な活用方法を検討すべきであるとする。

#### イ 公園維持管理事業

子育て世代の若者を呼び込むためには、居住地に近い公園の充実が必要である。子育てをする親にとっては、子どもが屋外で安全に遊べる環境が必要であり、また、公園は遊具のある公園と、ボール遊び等ができる公園が分かれて設置されていることで、子どもの成長に合わせた対応ができると考えられる。地域の特性を活かし、子ども目線と親目線の両立した環境づくりが大切である。

維持管理する市は、年月の経過とともに、各所にある遊具等の耐用年数を確認しながら、適宜適切に更新していく責務がある。空き家の周辺環境という副次的要素としても、公園を充実させることで、結果として、市の定住人口の増加に繋がって行くものとする。

#### ウ 企業誘致事業

盛岡西リサーチパークへの企業誘致は既に終了し、現在、市が供給できる事業用地は、主に岩手県立大学周辺である。I P Uイノベーションセンター、パークへの企業誘致は順調に思えるが、I C T産業等ソフト系の事業に特化しており事業集積規模も限定的である。

本市は2つの大学が立地した学園都市であり、他自治体よりも学生の人材供給には優位にあることから、その優位性を訴えて、企業誘致に挑むべきとする。

若者にとって魅力ある企業を誘致するために、本市の企業誘致のプランを企業に明確に示し、大手商業企業や工業企業など、I T分野以外の優良企業も視野に入れ、若者の雇用を増やすことで、市への生産年齢人口の流入につながると考える。

#### エ 新規就農対策事業

若者の新規就農希望者は農業技術や、経営ノウハウも不足していると思われ、当初から規模の大きな農業は難しく、自立営農は現実的に難しいとする。

農業従事者の高齢化等の問題が顕著であるが、市内には農業に従事する若者もおり、農業を通じて繋がりを持ち、活動している団体も存在している。

市には、兼業を含む小さな農業の支援、生活できるだけの収入が図れる農業支援、農地利用の充実、新規農業者以外の団体の支援、法人化の支援、作物の種類限定、農業に触れる政策の展開等、魅力ある農業形態を模索し十分な支援を行うことが求められる。

併せて、既存農家の後継者の育成施策を充実させることも、本市の農業振興と若者定住の両施策に貢献できるものとする。

#### オ 都市計画総務事務

若者定住のためには若者が住みやすい、住んでみたいという都市計画を策定する必要がある。市役所を中心とした中心市街地化、滝沢中央S I C周辺への企業誘致、I P Uイノベーションパークの充実等の都市構想があるが、目に見える進展がない状況であるため、市は早急に推進しなければならない。滝沢市都市計画マスタープランの上位計画である、第1次滝沢市総合計画、国土利用計画滝沢市計画の目標年次が令和4年であることから、この時期に遅滞なく本市の都市計画マスタープランを見直し、実行する必要がある。

都市計画の策定は本市の将来像を描き、医療・福祉、産業、公共交通、農業、観光、防災等の多岐に亘る影響を及ぼすものであるため、市には、その重要性を改めて認識することが求められる。

以上の調査をとおして、本市の若者定住にとって「空き家対策推進事業」「公園維持管理事業」「企業誘致事業」「新規就農対策事業」「都市計画総務事務」の5つの事業は必要不可欠であることが明確になった。今後は、これらの事業の進展を図るために浮彫りとなっている問題解決方法を具体化していくことが必要である。

本市に若者が定住するためには若者の意見を十分に取り入れた街づくりが必要であり、それぞれの事業を連動させながら推し進めていくことが必要と考える。特にも、解決していく要素が関連している事業は、各々の枠を外して新たな方針で検討することが望ましく、幅広く市民の意見を取り入れ、市民とともに創り上げる体制等を構築することが求められる。各種事業を着実に推進する具体的な計画と実施時期を市民、特にも若者に示すことが不可欠であり、そのことにより本市での若者の活躍が増え、その定住が本市の人口減少の抑制となるものとする。

## 4 議会運営委員会による調査と内容

### (1) 調査事項

「若者定住に関する提言書（素案）」に対するアンケート調査及び市議会ホームページでの市民からの意見聴取

### (2) 調査理由及びその目的

総務教育・環境厚生・産業建設の各常任委員会での所管事務調査を踏まえ、議会運営委員会において「若者定住に関する提言書」として素案をまとめ、その内容について関係団体からアンケート形式で意見聴取を行った。

また、滝沢市議会ホームページにも素案を公開し、市民からの意見を募った。

### (3) 調査内容

#### ア 対象団体

- ・滝沢市自治会連合会
- ・滝沢市商工会青年部
- ・滝沢市保育協会
- ・滝沢市PTA連絡協議会

#### イ 実施期間

令和3年9月16日から令和3年10月29日

#### ウ 実施内容

素案の中の「若者定住」に係る3つの提言を示した上で、郵送又は電子メール、ファクス等により意見を求めた。

#### ・提言1（総務教育分野）

若者定住に向けた「滝沢を知り、愛着を持ってもらう」ための機会創出を図ること

#### ・提言2（環境厚生分野）

若者定住に向けた保育環境の充実を図ること

#### ・提言3（産業建設分野）

若者定住のための生活基盤と産業基盤の整備について

#### ・その他、自由意見

#### エ 回答者数

37名

※市議会ホームページからの意見の提出はなかった。

### (4) 寄せられた意見

P39：資料7にまとめて掲載

## 5 議会運営委員会で行った学生との意見交換会

### (1) 盛岡大学

#### ア 開催日時

令和3年12月8日(水) 13時30分～15時00分

#### イ 場所

盛岡大学短期大学部棟B101教室

#### ウ 参加者

盛岡大学文学部の皆さん12名

滝沢市議会5名

(相原委員長、佐藤副委員長、角掛委員、仲田委員、藤原副議長)

### (2) 岩手県立大学

#### ア 開催日時

令和3年12月24日(金) 13時00分～14時15分

#### イ 場所

岩手県立大学総合政策学部棟アクティブラーニング室

#### ウ 参加者

岩手県立大学総合政策学部の皆さん10名

滝沢市議会4名(相原委員長、佐藤副委員長、仲田委員、日向議長)

聞き取り内容「滝沢を知り、愛着を持ってもらうための機会創出」

盛岡大\*\*\*\*\*

- ・お店が少ない
- ・車がないとダメ
- ・バス料金が高い(でんでんむしバス)
- ・滝沢を知る機会が少ない
- ・イベントの参加の時にビッグルーフ滝沢が遠い
- ・盛岡大学祭にも議会が参加
- ・特産品のPRに工夫をすれば良いのでは(姪が写ったスイカのポスターの話)
- ・特産品を良く知らない。知らせると新鮮な反応がある。そして、滝沢を好きになる。
- ・文化(歴史)に触れあう機会がコロナで減っている。もっと増やす必要がある。
- ・(市の取組について)自分が知らないうちに結構良いことをしているが、宣伝が足りない。ホームページで宣伝しても目に止まらないので別な方法で。
- ・小学校の総合教育で滝沢のことをもっと学べるようにする。
- ・若者が積極的に行動!
- ・市がどうアプローチするか?
- ・若者目線
- ・SNSの活用
- ・若い議員の増

岩手県立大学\*\*\*\*\*

- ・人材育成…若い人材の育成
- ・子育て環境の充実
- ・住民票を異動したときに地域の情報が入らない
- ・地域の繋がりが大切…学童や後継者と触れ合うことで地域や歴史を知る機会となる。
- ・生活する上でのメリットがあると良い。
- ・滝沢の現状はダメ！
- ・お祭りやイベントの開催で若者が集まる機会をつくる。例えば、鷹巣子市の実行委員会に参加や市の企画政策課が関わったりするなど（ワークショップはハードルが高い）。このような機会をつくることによって若者と地域がつながる場となる。
- ・繋がるための市からの情報発信が足りない。
- ・滝沢駅から大学までの間に何もないので魅力を見つけにくい。
- ・市が行っているインターンシップ制度など若者が集まるメリットを知らせる。
- ・中学校、高校で被災地を廻る機会はある。
- ・滝沢市内の企業の理解を深める場を作るべき。
- ・意見交換会など継続的な取り組みが必要。

考察

滝沢市のことをもっと知りたい、体験したいと思っても移動手段の利便性が一番の問題と認識しており、公共交通機関であるバスの路線や乗車時間について、今以上の確保が必要と捉えている。

また、滝沢市の特産品や文化、歴史についても若者に伝える発信の仕方を工夫することや教育分野との連携等の必要性も感じている。滝沢市では、若者に対しての様々な情報提供が十分ではないことが伺われる。SNSのさらなる活用も視野に入れた情報発信のあり方が、これからますます重要となってくることがわかる。

聞き取り内容 「保育環境の充実」

盛岡大学\*\*\*\*\*

- ・他市町では大きな施設に子育て支援センターがあるのに、滝沢市には無いのは残念。あればもっと良い。
- ・勤務条件が盛岡に比べて良くない。条件は選択肢に入れて考えるので、条件を良くすれば保育士が確保しやすくなる。
- ・市内に就職したいと思わない。
- ・大学と市との保育に関する情報交換が足りない。
- ・保育士の資格があっても勤務条件が厳しく辞めてしまう人がいる。
- ・若手保育士等の処遇改善が大事！
- ・0歳から2歳の保育を重視。
- ・空き家や空き店舗の利用。保育ママの援助が必要。
- ・保育協会の待遇が良くない。移動が多いなどで盛岡に転勤。
- ・公立保育園の有無。
- ・保育士の収入のギャップを埋める。
- ・市の保育協会の基本給は高いが手当が他の地域より少ない。
- ・保育士のメンタルケアに力を入れてほしい。
- ・保育士と子育て中の親の負担を軽減するためICTを上手に活用。
- ・ICTの使い方の指導者を育成。

岩手県立大学\*\*\*\*\*

- ・保育士確保のため、奨学金の半分の補助をする。
- ・業務の多忙さ…環境とか働き方、相談場所が必要。IT化しているのをもっと広げては？
- ・人の入れ替わりが激しい現実の対応
- ・保育士のイメージアップを図る。楽しい仕事であることを伝え、大変なイメージを払拭する。大変そうというイメージ…賃金の低さ<待遇改善（働く時間を短くする？そのために保育士の増加の課題あり？）
- ・社内保育に国の助成金を支給することで受け皿の確保につながるのではないか。

考察

盛岡大学の参加者の中に、児童教育学科の学生がいたことなどで就職活動の立場から市内の保育所の情報が挙げられ、保育士確保に向けた取り組みには現実的な課題が見えてきた。保育士確保については、働く側から角度を変えた調査の必要を感じる。

子育て環境の充実のために、若者の角度からICTを活用した取り組みの紹介、メンタルケアの提案などこれからの方向性に新たな提案がなされた。ハード面、ソフト面についての環境づくりの重要性については今後の調査で行うべきと捉える。

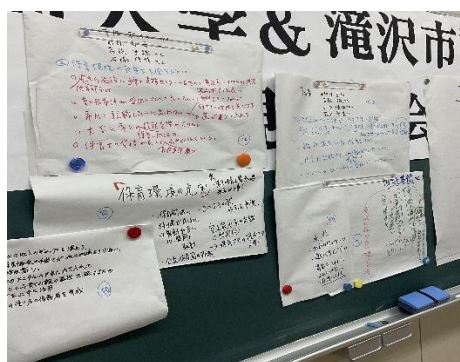
聞き取り内容「生活基盤と産業基盤の整備」

盛岡大学\*\*\*\*\*

- ・ 巢子に住んでいるが市役所への交通機関が無いので不便。直接行ける公共交通の整備を。
- ・ 職住近接で就職先を決めた。
- ・ 保育士として就職する予定。自分の考えと園の方針の一致が決め手だった。
- ・ コンビニよりもスーパーが近くにあると便利。
- ・ 2つ目のビッグルーフがあってもよい。
- ・ 遊べるところがない。
- ・ 若者を入りたいし、出したくもない。そのために生活のしやすさは重要。
- ・ 滝沢に住みたい理由が無い。
- ・ 交通手段が少なく便が悪い（バスカードや定期ではなく I C 化）。バスの増便を。
- ・ 若者の集まりが中心拠点構想での商業施設が出来ることで良くなるのでは。

岩手県立大学\*\*\*\*\*

- ・ 若者定住課を設置することで情報共有ができる。また、市独自の取組も可能。専門的な課として設置することで、より手厚い支援が可能になる。
- ・ スーパーが無い、本屋が無いなど若者にとっての不便さが解消されるように「若者」に特化したニーズを検討すべき。
- ・ ビッグルーフ滝沢を活用した若者向けのイベントの開催充実。また、大学からの交通手段の不便さ解消。
- ・ 公共交通の充実。
- ・ 団地の高齢化による空き家の活用。
- ・ 滝沢市内の働き口として民間企業がなかなか無い？会社が中身を知らせる機会が必要。
- ・ 公園じゃなくてその周辺、道のり（街灯とか道とか）もセットで考えるべき。
- ・ 大学周辺にお店が無いのでバイト先もないので盛岡に出てしまう。
- ・ 灯りが無い…物理的な明るさが街の明るさにもつながる。
- ・ バスが少ない。
- ・ 星がよく見えるなど市の長所をもっと伸ばせないか。
- ・ 講義の合間に時間をつぶせるようなカフェとかが欲しい。
- ・ 門前町構想を実現してほしい。





## 考察

学生の生活圏内に必要とされる環境は、スーパー・遊戯施設・若者が集える拠点、そして、移動手段の多様性が必要であると捉えられる。自由な行動環境が整備されることで、住んでいることの満足度はかなり変わってくることから、生活環境の充実は、若者にとって滝沢の魅力アップにつながる要因であることがわかる。

また、滝沢で仕事をしたいと思えるような環境づくりとして、市内企業のPRを十分に行うことも要求されていることから、ここでも若者に対する情報発信不足であることが浮き彫りとなっている。



## 6 各常任委員会における最終協議 協議日程と内容

開催日と委員会名	検討内容
令和4年2月8日(火) 総務教育常任委員会	市民懇談会、アンケート調査、意見交換会等で得た市民の意見を仕分けし、具体的に政策提言に結びつける。  ○協議する項目 ・議会がまとめた内容と市民の意見に大きな乖離がないか ・提言に向けた内容に不足はないか ・上記を踏まえた加除、修正項目
令和4年2月9日(水) 環境厚生常任委員会	
令和4年1月25日(火) 産業建設常任委員会	

## IV 提言

### 1 総務教育常任委員会の提言

○若者定住に向けた「滝沢を知り、愛着を持ってもらう」ための機会創出を図ること

若い世代は、学業や個々の趣味趣向に基づく活動、仕事や子育てなど多忙であり、地域に目が向くことはなかなか難しいと考える。そのためには、多忙な若者が地域活動などに参加しやすい環境づくりが必要である。

若者による課題掘り起こしの取組としては、既存の諮問機関や地域関係団体だけでなく、若い世代と日頃から対話を通じた課題の抽出、共有、解決策の立案まで行うことが重要であり、若者にいかに“我が事”と捉えて参画してもらえるようにすることが鍵となる。

また、若者による魅力発見の取組としては、その地域の歴史や文化に光を当て、小中学校から高校・大学に至るまで本市を知る機会を連続的に創出する必要がある。それらの取組を通じて人との出会いや“楽しい”“うれしい”“感動”といった体験を重ねたり、親子で参加する機会を増やしたりすることで、新たな魅力発見や地域への愛着につながるものとする。

このことから、常時若い世代とのコミュニケーションの窓口となり、その意見を政策や施策に生かしながら、事業の企画・立案・展開・発信を部局横断的に行う「若者定住課（仮称）」を新たに設置し、若者定住に向けた総合的な計画策定を早急に進めるべきである。

### 2 環境厚生常任委員会の提言

○若者定住に向けた保育環境の充実を図ること

子育て環境の充実を図るため、保育施設等のハード整備はもちろんのこと、そこで働く保育士の確保」というソフト面での支援が何より重要である。隣接する盛岡市との保育士確保に向けた支援策を同等もしくはそれ以上に改善しなければ、より条件の良い盛岡市の方を選択するのは当然である。盛岡大学での学生からの意見聴取では、地元（出身地）よりも大学近隣への就職を希望する声が多いにもかかわらず、こういった条件整備の遅れから他市へ行ってしまうのでは、せっかくのチャンスを不意にするものである。保育士確保に向けた直接的かつ継続的な支援は、喫緊の課題としてすぐにでも取り組むべきである。

また、園見学バスツアーでは、保育施設はもちろんのこと、前述の提言とも関連付けて、滝沢市内各所もあわせて巡るなど、地域を知ってもらうことで、その魅力に触れ、就職先として選び、定住・移住につなげるという相乗効果も期待できる。

園内事務のICT化については、岩手県立大学とIT企業が集積するIPUイノベーションセンター及びイノベーションパークが立地する本市の強みを最大限に生かし、保育現場からのニーズを踏まえたICT化を産学福連携で進めることで、保育施設では課題解決や職場の魅力向上につながり、大学にとっては実学実践の場となり、企業にとっては開発、販売実績となる“三方良し”の取組となる。そして、これらを部局横断的にコーディネートするのも前述した「若者定住課（仮称）」の役割とするべきである。

小規模保育所施設については、本市における待機児童の年齢構成や、保育サービスの見込み量、人口推計等を勘案すると有効な施設であるとする。将来的な人口減少、保育児童の減少等も見据え、都市整備部門とも連携を図りながら、空き店舗や空き家を活用した小規模保育事業所の開設支援、仲介などを積極的に行うべきである。

なお、具体的な事項を含めた補足的提言として、以下提示する。

ア 保育士に対する各種支援

- ・他市町村との待遇面に関する格差を是正するため、賃金、勤務時間、手当等の見直し・改善を促すこと
- ・地理的条件も含めた宿舍借上げ基準を改善すること
- ・保育士就労に必要な子育て支援策を充実すること
- ・保育士に対するスキルアップのための学びの場を創設すること

イ 保育施設の改善

- ・小規模保育施設の配備のあり方に係わる議論を深めること
- ・3歳児以上の受け入れを含めた小規模保育施設の使用のあり方を検討すること
- ・休日保育受け入れ施設の増に向けた働きかけを行うこと
- ・運営事務の外部委託支援や専従職員の配置に向けた支援を検討すること
- ・職場や職種の魅力を発信する広報活動を検討すること
- ・地域団体との連携方法(ファミリーサポートセンターの運営等)を検討すること
- ・保育士確保のための情報交換の場を増やすこと
- ・これら取組を推進するため、市の積極的な関与とリーダーシップを発揮すること

ウ 保育園の利用者への対応

- ・利用者の要望を的確に把握すること
- ・利用者の要望を具現化させる方法を検討すること

エ 保育士を目指す学生に対する支援

- ・奨学金の借入や返済に関わる基準の是正を促すこと
- ・就職祝い金等を検討すること
- ・学生の意見を的確に把握するための手法を検討すること
- ・目指す学生を増やすための関係団体との連携を検討すること

オ 放課後児童クラブの体制強化

- ・地域間の格差、クラブ間の処遇面に対する格差等の是正を検討すること
- ・発展・充実並びに格差是正を目指し社団法人の設立を検討すること

### 3 産業建設常任委員会の提言

#### ○若者定住のための生活基盤と産業基盤を整備すること

新型コロナウイルス感染症の拡大は、日常生活や地域経済にさまざまな影響を与えた。それともなあって、人々の意識や行動にも大きな変化をもたらした。具体的には、テレワークの普及やリスク回避としての職・住環境の見直し、自然や人々の絆の大切さの再認識といったことを受けての地方への関心の高まりである。

令和2年7月に策定された国の「まち・ひと・しごと創生基本方針2020」では、感染症による意識・行動変容を地方創生に向けたある種の“追い風”として、「地域特性に応じた稼ぐ地域の実現」と「地方への移住・定住の促進」を打ち出している。

滝沢市でも感染症の拡大による人々の意識や行動変容を逆に好機と捉え、県都盛岡市に隣接し、かつ複数の大学が立地するという県内でも非常に恵まれた環境を最大限に生かしながら、「若者定住」に向けた目に見える政策を積極的に打ち出す必要がある。

そのためには、「若者」に特化したニーズに基づく生活基盤、産業基盤の整備に向けた検討を進め、目玉となる政策を一つでも具体化し、県内外に向けてアピールすべきである。

また、盛岡市のベットタウンとして繁栄してきた滝沢市の歴史から、盛岡広域都市圏における当市の位置づけ、役割を今一度考えながら、ヒト・モノ・カネの限られた資源の中で、産業や雇用の拡大・創出といった取り組みは、広域で相互に補完、連携することで、最も効果を発揮できるものとする。

そのためにも、若者からの意見聴取に努めながら、生活基盤、産業基盤の整備に向けた部局間連携、自治体間連携を促し、コーディネートを行う「若者定住課（仮称）」を設置するとともに、市長自らが若者定住に向けた自身の考えやビジョンを示しながら、地域や企業、関係団体に対して積極的に働きかけを行うべきである。

#### 4 滝沢市議会からの提言

令和元年度を始期とする第1次滝沢市総合計画後期基本計画では、最終年度である令和4年度までの目標を「幸せづくり活動が増えているまち」と定め、「健康づくりを通じた幸せづくりの加速」と若者が定住できる受け皿の確保」の2つの展開戦略を用いて、「幸福感を育む環境づくりの基盤づくり」の実現に取り組むこととしている。

滝沢市議会では、特にも、「若者が定住できる受け皿の確保」に視点を置き、市民の意見を重視しながら、様々な角度から調査を進めてきた。

その結果、事業の企画・立案・展開・発信を部局横断的に行うことが現状の展開戦略をさらに強化することに繋がると捉え、「若者定住課（仮称）」を新たに設置することを提言する。

## V おわりに

令和3年11月30日に公表された総務省統計局による「令和2年国勢調査人口等基本集計結果」によれば、滝沢市は55,579人(表1)、前回平成27年国勢調査比0.2%の増、県内33市町村中、6番目の人口規模となった。

しかしながら、国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の人口推計では、本市の人口のピークを令和2年(2020年)56,058人としていたが、実際の国勢調査結果では推計値に対し479人減となっており、人口の伸びも鈍化していることが確認できる。

社人研の将来人口推計では、令和2年(2020年)を境としてその後減少に転じ、令和27年(2045年)には人口5万人を割り込むとされているが、その減少スピードは逆に加速していく可能性も出てきた。

また、特にも注視しなければならない年少人口(0歳~14歳)及び生産年齢人口(15歳~64歳)においても、平成17年(2005年)をピークに減少に転じており、令和2年(2020年)と平成17年を比較すると、実に5,104人の減少となった(表2)。

今回の国勢調査において、県内全体の人口が減少数、減少率ともに過去最大を記録したと報じられる中で、県内からの転入者が大多数を占める本市にとっても、その影響は今後様々なかたちで表出してくるものと思われる。

県内各市町村では、そのほとんどが「若者定住」を重点政策として打ち出し、独自の子育て支援策や産業振興、教育や住環境整備に取り組む中、“若者に選ばれる滝沢市”となるためには、今回の提言を踏まえた取り組みを確実に実施できるよう「若者定住課」などの組織づくりを進めるとともに、県内及び盛岡広域都市圏における本市の強みを念頭においた市長の強いリーダーシップが何より必要である。

(表1) 滝沢市における人口及び世帯数の推移

年次	計	男	女	世帯数	
昭和50年	16,047	8,473	7,574	3,881	国勢調査
55	25,686	13,317	12,369	6,936	〃
60	31,733	16,167	15,566	8,770	〃
平成2年	38,107	19,267	18,840	11,511	〃
7	44,189	21,796	22,393	14,195	〃
12	51,241	25,136	26,105	17,938	〃
17	53,560	26,182	27,378	19,096	〃
22	53,857	26,233	27,624	19,400	〃
27	55,463	27,095	28,368	20,787	〃
令和2年	55,579	27,146	28,433	21,709	〃
(令和2年)	(56,058)	(27,368)	(28,690)		社人研推計値

(表2) 滝沢市における年少人口及び生産年齢人口の推移

年次	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	合計	
昭和50年	3,787	11,468	15,255	国勢調査
55	6,710	17,728	24,438	〃
60	8,327	21,496	29,823	〃
平成2年	8,670	26,508	35,178	〃
7	8,660	31,273	39,933	〃
12	8,825	36,739	45,564	〃
17	8,542	37,652	46,194	〃
22	7,994	36,344	44,338	〃
27	7,970	35,312	43,282	〃
令和2年	7,614	33,476	41,090	〃

委員会名簿

委員会名	令和元年8月6日～ 令和3年7月30日	令和3年8月6日～ 令和5年7月30日
総務教育常任委員会	◎相原孝彦 ○柳橋好子 角掛邦彦 仲田孝行 松村 一 菅野福雄	◎遠藤秀鬼 ○藤原 治 日向裕子 川口清之 小田島清美 稲荷場裕
環境厚生常任委員会	◎齋藤 明 ○藤原 治 遠藤秀鬼 川口清之 井上 仁 山谷 仁	◎相原孝彦 ○奥津一俊 角掛邦彦 柳橋好子 松村 一 菅野福雄
産業建設常任委員会	◎稲荷場裕 ○日向裕子 奥津一俊 佐藤澄子 小田島清美 長内信平	◎山谷 仁 ○仲田孝行 佐藤澄子 井上 仁 齋藤 明 長内信平
議会運営委員会	◎相原孝彦 ○齋藤 明 仲田孝行 松村 一 小田島清美 稲荷場裕 角掛邦彦	◎相原孝彦 ○佐藤澄子 齋藤 明 仲田孝行 遠藤秀鬼 山谷 仁 角掛邦彦

※◎印は委員長、○印は副委員長

# 添付資料



## 【資料1】総務教育常任委員会アンケート調査

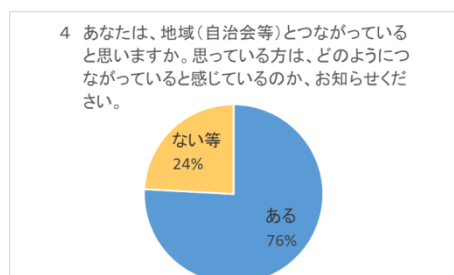
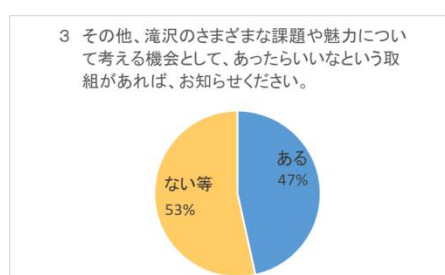
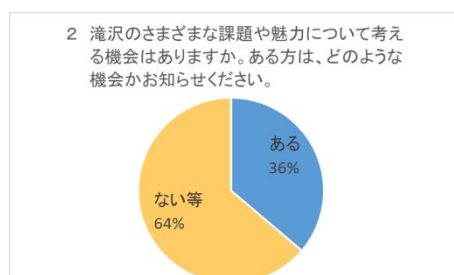
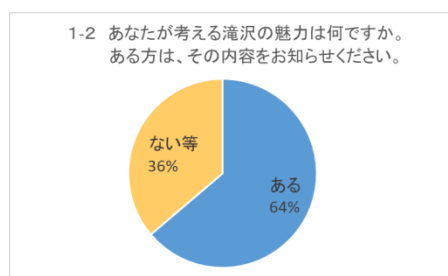
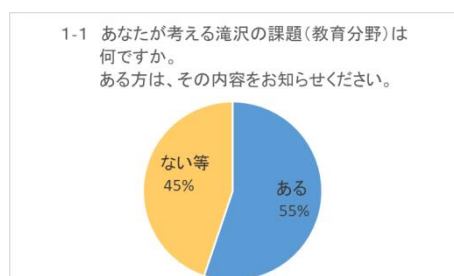
実施期間	実施目的	対象者
令和2年9月10日～ 10月16日	滝沢の課題や魅力について考える機会が持っているのか等の調査のため	滝沢市PTA連絡協議会 回答数 13校 回答者数58名

### 聞き取り内容

〔調査項目〕

- あなたが考える滝沢の課題（教育分野）や魅力は何ですか。  
ある方は、その内容をお知らせください。
- 滝沢のさまざまな課題や魅力について考える機会がありますか。ある方は、どのような機会かお知らせください。
- その他、滝沢のさまざまな課題や魅力について考える機会として、あったらいいなという取組があれば、お知らせください。
- あなたは、地域（自治会等）とつながっていると思いますか。思っている方は、どのようにつながっていると感じているのか、お知らせください。
- その他、ご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

〔集計結果〕※個別具体的な内容は略しています。



## 調査結果

本委員会で実施したアンケート結果によると、滝沢のさまざまな課題や魅力について「考える機会がある」と回答があったのは約36%であり、「無記入、特になし、考えたことがない」等であったのは約64%であった。このことから、市民一人ひとりが滝沢のさまざまな課題や魅力について考える機会を持てるような取組が必要である。

「地域（自治会等）とつながっていると思う」と回答したのは、約76%であり、「無記入、特になし」等であったのは約24%であった。このことから、滝沢市PTA連絡協議会の役員等、役割を担うことによって地域とつながっていると感じるのかもしれない。

## 【資料2】環境厚生常任委員会健康福祉部児童福祉課事務調査（令和2年7月10日（金））

### ア 待機児童の状況

	H27.4	H28.4	H29.4	H30.4	H31.4	R2.4
入所保留数	43	87	99	94	114	101
待機児童数	1	16	27	27	35	13
（隠れ待機児童）	（42）	（71）	（72）	（67）	（79）	（88）

### イ 本市における保育士確保支援事業

	支援事業	実施状況	内容
1	保育士宿舍借り上げ支援事業	○	宿舍借り上げにかかる費用の3/4を補助 上限額 一人一月当たり41,250円
2	奨学金返還支援補助事業	×	—
3	若手保育士等处遇改善事業	×	—

【資料3】環境厚生常任委員会保育施設運営法人からの意見聴取

開催日	実施目的	対象者		
令和2年9月11日	保育施設における保育士不足の現状及び保育士確保の取組を確認する	①社会福祉法人滝沢市保育協会 3名 ②学校法人大釜学園 2名 ③学校法人撫子学園 5名 ④社会福祉法人鶴山記念会 2名		
<b>内容</b> ア 保育士宿舎借り上げ				
	法人名	実施の有無		現状と課題
1	滝沢市保育協会	○		・市が単年度予算のため新年度の求人票に謳えない。 ・精算が年度を超えるため、法人側の立替負担が大きい。(対象者一人当たり約50万円)
2	大釜学園	×		・生活の便を理由として盛岡市に居住する傾向があり、住所要件が課題
3	撫子学園	○		・市が単年度予算のため新年度の求人票に謳えない。 ・保育士確保対策について、同種制度の導入の際は、広域調整を行うべき。隣接自治体の制度の相違が各般にわたる混乱をきたしている現状について改善を図るべき。 ・滝沢市と盛岡市で保育施設を運営しているが、滝沢市の住所要件が厳格なため採用及び人事配置上の制約となっている。(盛岡市は住所要件が柔軟)
4	鶴山記念会	○		・R1年度2名、R2年度4名利用 ・市内に一人暮らし向けの物件が少ない。

イ 奨学金返還補助

	法人名	実施の有無	現状と課題
1	滝沢市保育協会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人で独自に実施 (月10千円、最長3年)</li> <li>・盛岡市では補助があるが滝沢市には無い。</li> </ul>
2	大釜学園	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生からの要望があるため、補助を実行してほしい。</li> </ul>
3	撫子学園	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡市では補助があるが滝沢市には無い</li> <li>・滝沢市と盛岡市で保育施設を運営しているが、自治体間で制度の乖離があるため採用及び人事配置上の制約となっている。</li> </ul>
4	鶴山記念会	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人で独自に実施 (月7千円、最長5年)</li> <li>・盛岡市では補助があるが滝沢市には無い。</li> </ul>

ウ 若手保育士等処遇改善

	法人名	実施の有無	現状と課題
1	滝沢市保育協会	×	—
2	大釜学園	×	—
3	撫子学園	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人で独自に実施 (月5千円上乗せ)</li> <li>・盛岡市では補助があるが滝沢市には無い。</li> </ul>
4	鶴山記念会	×	—

エ その他

以下のことについて要望があった。

- ・市主催による保育施設見学バスツアーの実施
- ・ICT化促進のための補助金

**【資料4】環境厚生常任委員会盛岡大学からの意見聴取**

開催日	実施目的	対象者
令和3年10月27日	保育士を志す学生の就職活動における視点等を確認する	盛岡大学 ①文学部児童教育学科 学生4名、担当教員1名 ②短期大学部幼児教育科 学生3名、担当教員1名

**内容**

- ・就職活動をする学生の視点において、保育士確保のための支援制度は最低限の条件となっており、近隣自治体と同様の条件整備の必要。
- ・実際の職場環境を確認し納得した上で就職先を決めたいという声が多かった。
- ・地元（出身地）よりも大学近隣への就職を希望する声が多かった。

**懇談会の様子**



【資料5】環境厚生常任委員会行政視察

開催日	実施目的	視察先
令和2年11月13日（金）	保育所待機児童対策の先進事例を調査研究するため、待機児童ゼロを実現している盛岡市へ行政視察を行う。	盛岡市子ども未来部 子育てあんしん課

内容

盛岡市における待機児童対策の取組

(ア) 保育士確保支援

	支援事業	内容
1	保育士宿舍借上げ支援事業 (国庫補助活用事業)	保育所等の事業者が保育士用のアパート等を借り上げる費用の一部を補助するもの。月額55千円を基準額の上限とし、3/4以内の額を補助する。※対象保育士の住所は盛岡市外でも可 《R1年度実績》 対象数110名 交付契約額41,296千円
2	保育士奨学金返還支援 (市単独補助事業)	保育士の資格を取得する前に奨学金を受給し現在返還を行っている保育士のうち、特に経済的負担が大きいと見込まれる若手保育士を対象に返還費用の一部を補助。補助金額は返還月額の1/2。ただし1月あたり7千円を補助の上限とする。 《R1年度実績》 対象数131名 交付契約額7,003千円
3	若手保育士等処遇改善事業 (市単独補助事業)	採用から間もない保育士を中心に経済的負担を軽減するため、処遇改善加算の対象ではない経験年数3年未満の保育士を対象に処遇改善を行う法人に対し、月額費用5千円以内の3/4を補助 《R1年度実績》 対象数119名 交付契約額5,205千円

(イ) 小規模保育事業所の開設

開設時の主体	H30 補助実績	R1 補助実績	特徴
市主導	2園	3園	市が指定する遊休物件を活用（公募型プロポーザル）
事業者主体	1園	1園	事業者から事業所開設の希望を受け、補助対象として適切と認められた事業者に対し補助

**【資料6】 産業建設常任委員会による学生との市民懇談会**

開催日	実施目的	対象者
令和3年1月14日	若者定住について、学生と意見交換をすることにより本市の現状と課題を把握の上、今後の滝沢市の若者定住に資するため。	岩手県立大学 総合政策学部

**内容**

懇談会では、学生が若者目線で滝沢市の現状を分析し、課題を抽出した上での、その課題解決方法 についての提案プレゼンテーションが行われた。

その後、当委員会の調査内容の説明を行い、委員会で抽出した5事業について、具体例を提示しながら意見交換が行われた。

**調査結果**

学生たちは、様々な角度から社会を捉え、一つひとつを丁寧に学習しており、その姿は、素晴らしいものだった。また、当委員会で調査している事業に関する課題及びその解決方法について、若者の意見との乖離は無く、各事業の課題解決の重要性がさらに高まった。

**オンライン会議の様子**



## 【資料7】議会運営委員会による関係団体へのアンケート調査

○滝沢市自治会連合会（回答11名／32名中）

提言1 若者定住に向けた「滝沢を知り、愛着を持ってもらう」ための機会創出を図ること  
(総務教育分野)

- ・滝沢市に住んでみたくなるような情報のより発信強化を図るべきと考えます。滝沢市の持っている「強み」を大いに宣伝すべきです。そのひとつとして、各自治会が持っている地域の宝物などを紹介することも考えられます。また、定住者として若者に限らず子育て中の世帯（あるいは新婚世帯）もその対象にすべきと考えます。子育て中（あるいは新婚世帯）を対象とすることから、出生祝い金制度の創設（あれば拡充）や地元の医療機関で出産等が出来るよう医療制度の拡充を図ることも必要と考えます。
- ・若者に対して、何が課題であるかを良く知ることが大切であり、コミュニケーションをどのようにしたら良い結果になるか、窓口となるところがあり、意見を政策に生かしていく工夫が必要だと思います。たとえば自治会でも家庭を持っていると仕事を中心に滝沢のことにはあまり関心がないように思います。そこをどのようにしていくかが課題であります。
- ・考察を受けて、(1)、(2)の取り組みが提起されましたが、同感です。ぜひ推進してほしいと思います。
- ・「若者定住課」の設置は良いと思いますが、若者視点を重視し、若い世代がメインで運営できると良いと思います。
- ・若者は愛着よりも住みやすさを求めているのではないかと思います（大型ショッピングモール、学校、病院、交通の利便性、コンビニ、ファミレス等）。
- ・美しい岩手山に自分で登ってみようと思う人がいると良いと思います。

提言2 若者定住に向けた保育環境の充実を図ること（環境厚生分野）

- ・学童保育クラブへの支援策の検討を要請します。現在の学童クラブは、父母会が中心となって運営していることから、各学童クラブ指導員の給与等を含め処遇面に格差があるといわれております。ついては、各クラブが同一労働、同一賃金となるよう、支援策の検討をお願いします。
- ・保育士の確保が一番重要であり、保育士の不足により、子供の受け入れが出来ない待機児童が出てくると思います。地元にいるようにするには、保育サービス、補助金の増加等良い環境があることを知らせることが大切であり、それを知らせるような様々な政策を考えていただくことが重要だと思います。
- ・「保育士の確保」は、最重要課題と思います。職場環境として待遇改善は当然のことで、滝沢市はどう考えているのか。
- ・その通りだと思いますが、滝沢市でしっかりとリーダーシップをとり、最後まで進めてほしいと思います（安易に業務委託や地域まかせにしないことが大切だと思います）。
- ・保育士の処遇改善は、今後も必要だと思う。保育士養成校がいくつかある市なのに、他県や他市町村へ就職するのは、やはり、給与、休日等の良いところへ行っていると思う。

提言3 若者定住のための生活基盤と産業基盤の整備について（産業建設分野）

- ・滝沢にある資源、例えば水・木・土・岩・砂、自生する山菜・きのこ・木の実などを活用した産業の創出、また（それらを）活用する企業の誘致を調査研究するような提言を検討する。



- ・「地産地消」、地元で採れたものを地元の商店・スーパーで購入できる、他の市町に出向かなくても買い物ができ、安心して暮らせる環境整備が望まれます。このことは若者問わず、滝沢市民全体の声でもあると思います。また、定住者の受け入れに当たっては、住環境の整備が重要となります。市内の「空き家」を整備し、提供するのも一つの方法と考えられます。雇用の確保も重要課題です。企業誘致を含め産業振興を図ることも雇用確保の一環と考えます。また、滝沢市の基幹産業の一つである農業の集約化を図り、規模拡大も雇用拡大の方策と考えます。
- ・滝沢市菓子は、大学、交通の便が良く、非常に恵まれている環境であり、菓子を定住の地として家を建てる若者が多くいる状態です。若者定住に向けた政策を積極的に打ち出す。また、議員さんたちも自身の考えを働きかけることが良いことだと思います。地元で働ける会社等があると非常にいいと思います。
- ・考察にある通り、(1)～(5)について提起されていますが、全く異論はありません。特に(5)の都市計画策定は早急に進めるべきと考えます。
- ・基盤整備の概念は理解できますが、具体的な方策が見えないように思います(例えば、自然環境が良ければ、観光産業として〇〇〇〇をする。教育環境が良ければ、学生や大学同士の連携による〇〇〇〇をする etc)。
- ・若者中心の住宅地と、老人中心の山間部の差がありすぎると感じる。市役所周囲を開発しているが、柳沢、一本木、風林などの地区開発計画はないのか、市としてどのように考えているのか発信することも必要かと思えます。
- ・仕事場があることが一番と思います。

#### その他 全体を通してのご意見等ございましたら、ご自由にお書きください

- ・いろいろな分野から提言されて、(仮称)若者定住課が必要とのことであるが、その役割は部局間、自治体間連携コーディネートというが、実際に何をするのか不明確である。定住を目的とした施策を体系化することが必要と思います。体系化した上で現課の事業、若者定住課の担う事業を明確にする。そして、若者定住課が具体的に行動する又は他課を動かすための権限と財源を与えることが必要と思います。組織が形だけでなく、魂が入ると思えます。議会としても体系的なものまで提言されたらいかがでしょうか。
- ・勝手に若者が関心を示しそうなことを羅列させていただきます。
  - ◇企業誘致など若者に魅力ある働き場所を増やす。
  - ◇共稼ぎ夫婦の経済的負担を軽減するために0歳から2歳児の保育料の無料化を行う。
  - ◇小学生以下の子どもが複数いる世帯に市有地を宅地化して無料で提供する(若者減少地区)。
  - ◇保育士の給料を公務員並みの給与体系にする。仕事の改善を図る(シルバーなどの支援人材活用)。
  - ◇活動センターなど放課後児童の居場所を作り、親が安心して働けるようにする。
- ・若者定住に関する提言書(素案)について、①～③に共通といえる「若者定住課(仮称)」等の設置を急ぎ、取組の実施に向かうべきである。
- ・(1)(2)(3)のどれにも関係しますが、市内の適所の土地の農振を解除するなどして企業の誘致や宅地開発を行い人口が増えなければ、若者定住は難しいのでは？
- ・「若者定住課(仮称)」については、当職としては、経済産業部内に全庁的対応が可能な部署として「定住推進室」もしくは「雇用推進室」の設置を求めます。

- ・今回の若者定住に関する意見とは関係ないことですが、ひとつ要望があります。「健康づくり政策課」を健康推進課内の「健康政策室」とする機構改革を行うことです。このことは、議員各位も感じている点が多々あると思いますが、現在の健康づくり政策課の取り組みは庁内共有されていないと感じられ、同時に地域を巻き込んだ事業になっていないと感じるのは私だけでしょうか。そこで、健康づくりの重要性に鑑み、健康推進課と一体になった事業展開が図られるよう改革を行いたいと思うものです。議員各位のご賛同をいただければ幸甚です。
- ・「若者定住」を目指し、アンケート調査を実施し、時間をかけこの提言書を作成された委員会の皆さん、大変お疲れ様でした。この貴重な提言書が、全市民の重要共通課題であることを情報提供し、発信してほしいと思います。滝沢市の将来がかかっていると思います。提言の推進、実現に向け、自治会も応援します。
- ・基本的には、若い女性（20～40代）が暮らしやすいなど魅力を感じなければ、その家族も含め定着しないと思います（ここが人口減を防ぐ方策の一つでは？）。女性の視点を生かし、意思決定への参画を図り、ジェンダーギャップのない社会を目指しましょう。
- ・定期バスを自動車運転免許試験場から市役所まで小型バスでよろしいので、一日2～3回往復をお願いします。
- ・農畜産を主たる生業にしている地域にとって、相の沢牧野のキャトルセンターの増設を強く希望しているが、前向きな回答が未だ聞かれず、市行政はまずは主たる産業の足元をきっちり見直すべき。現在市当局は「金がない、金がない」の連発で、はっきり言って幻滅感を禁じ得ない。金がなければ知恵を出せ。

○滝沢市商工会青年部 (回答8名/16名中)

提言1 若者定住に向けた「滝沢を知り、愛着を持ってもらう」ための機会創出を図ること  
(総務教育分野)

- ・楽しい、遊ぶ場所が必要
- ・アウトドアとか自然を生かした施設
- ・飲食店、飲み屋がない
- ・移住者及び片親への住民税の優遇(1年) ※1年住めば慣れると思うので。(逆に)住んでいる方からは不満が出るので、(それに対する)何か対策をしてほしい
- ・本市は、商店街をはじめ観光地や昔から続く祭りやイベントが乏しいため、盛岡のベッドタウン化した自分のまちに対する誇りが薄れています(元々ないかも)。若者はそういったところでの出会いや体験、経験に感動し地元で愛着が生まれるのだと思います。ぜひ、課題を克服し感動を与えるまちになってほしいです。
- ・多忙な若い世代が参加しやすい環境づくりとして負担軽減をとありますが、若い世代は多忙でも参加したいイベントや企画には参加します。時間も作ります。負担を減らすのは大切ですが、地域活動への参加や地域に目を向けてもらうための方法としては意味がないと思います。魅力がないか、活動を知らないだけなので、参加したいと思わせる活動にするか、活動の周知に力を入れた方が良く考えます。

課題の掘り起こしに関しては、当事者の若者と対話することは大切ですが、彼らは定住する必要性がないため、無理難題や一般論から抜け出すのは難しく、それが達成されたとしても定住するとは言えません。やるなら市役所に勤めている他市在住の人(若者に限らず)に滝沢へ引っ越してきてもらう方法を考えて対話を重ねてほしいと思います。職場が滝沢にあり滝沢のことを知っている職員が滝沢に住まない理由は、若者が滝沢に定住しない理由と同じ部分が多いと思います。地域に対して意識が高く、所得も安定している市役所職員が滝沢に住んで活動すれば、それだけで地域活動が活発になるのではないのでしょうか?

魅力発見の取組みとして、学業を通して住んでいる場所について学ぶことは大変意味があることですが、歴史や文化を感じるものが日常生活に垣間見ることができなければ、定住までの魅力にはならないと思います。埋蔵文化財センターに行けばとか、馬コや神楽やさんさの伝統がとか、そんなものは定住しなくても見たり体験することができるため、定住する必要はありません。滝沢市は残念ながら市全体として歴史や文化を感じるようなつくりにはなっていないと感じます。また、子どもに教えるとともに親世代にも伝える機会を作らなければ市全体の意識は変わらないと思います。

歴史や文化を前面に出すときは観光用なのか定住用なのかを見直し、まずは若者に限らず全市民に学んでもらい、可能であれば景観を含め、市民全員が滝沢に誇りを持つことが大切であると感じます。

定住に関する提言としてあれば若者が参加したくなるような地域活動を行う。ただし地域活動の中でも奉仕活動に近いものは賃金(対価)が発生するようにする。ボランティア活動ではなく、労働であれば対価を。現状地域への愛着や定住が足りていないからの提言です。愛着やボランティア精神に頼った考えはしない。昨今地域活動の種類によってはお金を払ってでもやりたくないという話も聞きます。理由は様々ですが無理強いすれば関係が破綻し定住は難しくなることを理解し、目的に応じて地道に参加者を増やしていく必要があると思います。

現在様々な地域で、利益追求型の企業と無償のボランティアの中間的な役割が、持続可能な地域の雇用や生き甲斐創生につながっているという例が増えてきています。そしてこれからの高齢化、人口減少への流れを受けてさらに増えて行くと考えられます。コミュニティ作成の活動は楽しく、地域の課題なら仕事、のように活動を分類し目的を明確にすることは、地域活動を嫌う若者にも効果があると考えます。課題解決は仕事です。それが仕事として成り立たないのであれば、その理由を考えてみてください。

文化や歴史については、今まで通り学業を通して学ぶ。可能であれば大人（保護者）もともに学ぶ。改めて押し進める必要はない。授業で一度教わるより、毎朝親が今日も岩手山がきれいだなと話の方が効果がある。新しく移住してきた家族であれば、親が滝沢の魅力を語れない。これを解決することができれば子の問題も概ね片付くと思います。農業を中心とした歴史や文化であれば、1年の流れを学ぶことで、田畑の景観、農にちなんだ伝統文化や行事、市への愛着、様々なものに繋がるため、まずは農を中心に指導計画を立てると良いと思います。また農家が魅力的であれば、景観、歴史文化、定住、雇用様々な問題の解決の糸口にもなると思います。

## 提言2 若者定住に向けた保育環境の充実を図ること（環境厚生分野）

- ・保育園、幼稚園は素晴らしい（先生たち）
- ・高校等の教育の充実
- ・保育関係の給料を上げる
- ・まずは保育士への優遇が先だと感じる。保育士が多い→待機児童がない！ここができてから考える
- ・保育士の確保のため、市の補助で給与を上げる。
- ・若手保育士等処遇改善について、若手保育士の定着率を高めるためには、働きに見合った待遇改善を図ることは一丁目一番地です。ほかに、保育協会傘下保育園の予算等削減により、安易に臨時や見習い保育士の解雇に繋がらないよう配慮願います。
- ・園内事務のICT化について、保育士の事務負担軽減のためには、事務の専従化や外部委託等も考えていってほしいです。
- ・若者定住に焦点を絞るのであれば利用者としての視点で提言すべきです。保育士確保や事業所については、利用者としては関係ない。子育て世代が事業所や保育士に何を求めるのか？を中心に問題定義と課題解決を考えてほしいと思います。あえてこの提言でいうのであれば保育士の確保について、もう少し学生の本音を聞き取った方が良いです。おそらく隣接する盛岡市と同条件や少し滝沢市の方が良い位では、状況は改善されません。近郊で働きたいのに滝沢に入っていないと思います。学生にとっての大学近隣といえば盛岡市も含まれる事。アンケートでの心証を意識して大学近隣と記載したなどが考えられる。滝沢市で保育士になりたい明確な理由があるのであればそれを書いてもらったほうが良いと思います。そういう学生は多少条件が悪くても滝沢を選ぶからです。バスツアーについては地域を知る活動はそれまでの学生生活の中で行うべきだと思います。旅行的なバスツアーでは定住には結びつきません。とくにコーディネートについては現状できているなら新しい課の役割にわざわざする必要はないです。現状対処できない案件を扱うための新設です。特に市役所内で部局横断的に活動することは大変難しく、新しい課ができることで、今までなんとか頑張っていた課の連携が、一つの課の仕事として変わり、課の連携がなくなる可能性が考えられます。

小規模保育所施設についてですが、若者定住が増えれば保育施設も必要になります。空き家や空き店舗は定住者の住まいや仕事創設のために活かすべきです。現状の課題解決のための方針である

ならば、人口減少を理由としてあげるべきではありません。理想論ですが、利用者はどんな所に子供を預けたいかが最優先事項であり、そこに近づくことが市の魅力となると思います。減少を見込んだ施設づくりやその場のしぎに、若者が魅力を感じるはずはありません。

### 提言3 若者定住のための生活基盤と産業基盤の整備について（産業建設分野）

- ・仕事柄、不動産会社から滝沢市に家を建てたくても土地がないということを良く聞きます。滝沢市は道路整備が行き届いており、宅地分譲等を進めてほしい。
- ・企業誘致、地産地消、道の駅、産直、警察署、消防署等の設置
- ・アスレチックパーク等が盛岡市にも無い。大規模な公園はあるが、アスレチックパークのようなものがあるといい。
- ・宅地造成
- ・1年間毎年給付金を支給する
- ・若者向けのアパートやシェアハウスをつくり（低価格、おしゃれ、補助金出す等）、定住促進が必要だと思います。
- ・当市には、複数の大学や短大があり、昼間の若者人口も県内ではトップクラスと大変恵まれています。今後は、大学等の研究機関の誘致や若者や若年層世帯に定住してもらうための奨励策（例えば現金支給、住居の提供、就業斡旋、若者タウンの整備等）を進めてほしいです。
- ・生活基盤や産業基盤の整備は時間もお金もかかる。私には考えられない位の規模の計画となるため特に何も言えません。ただ若者特化に関しては違うと思います。定住のための市の魅力とは若者に聞いても生まれない。人それぞれ違う考えを持ち、魅力と感ずることは違う。さらにそれは変化するものである。まずは若者に限らず今住んでいる人の生活が充実し、友人、同僚、子供に良さを語る。もっと言えば自分の子供が滝沢に残りたい。残れる環境整備こそが若者定住に向けた魅力作りと考えます。気にすべきは若者ではなく今の大人や高齢者たちではないでしょうか。

聞き取りをして欲しい人は、一つや二つ上の世代の方々です。子供は滝沢にいますか？いないのであればその理由は？いるのであればその子供に残った理由を聞き取れば、若者に聞くより現実的な課題が見えてくると思います。

コロナによる追い風は滝沢にはそれほど吹かないと考えた方が良いでしょう。ワーケーションとしては宿泊地の問題、テレワークありきで移住するならもっと安価で景観が良く、魅力的な所がいっぱいあります。勝負すべきところが違います。

今、滝沢市の魅力を熱く語る人間が市内にどれだけいますか？他県他市の魅力的な政策を見て、そこに引っ越したくなりますか？生活基盤でも産業基盤でもいくら良くしても、もっと良い所はいくらでもあります。全国の流れや流行りではなく、滝沢市の現状や特色を再度見つめて、今一度若者定住に向けた方針を考える上での基準を考えてください。

### その他 全体を通してのご意見等ございましたら、ご自由にお書きください

- ・市街化調整区域等の見直し、企業誘致、企業と市との連携事業等積極的な政策が必要になると思います。
- ・市街化調整区域が多すぎる。商売したくても制限がありすぎる。
- ・制限がありすぎて居酒屋さんができない。

## ・全体を通して

まずは若者の定義を明確にすべきである。政府や行政の政策においては39歳までとする場合が多いが、一般的な感覚とのズレを感じる。調査の時と同様に提言でも、どんな若者にアプローチするのか明確にしてほしい。

39歳までを若者とするなら、幸いなことに市役所には多くの若者がいる。彼らに意見を聞くのではなく、定住してもらうために活動すれば様々な実績が得られるだろう。

個人的には若者は定住しない生き物で、若者に聞くのは無駄が多いと考える。地域の定住者が生活しやすい環境づくりこそが、若者定住のための活動ではないだろうか。子供は親を見て育つ、大学生だろうが、社会人だろうが周囲の大人をよく見ている。友人に滝沢を勧められることもあるだろう。逆に大人が滝沢に不満を漏らしているのを見て聞けば、後でどれだけのことをやっても無駄である。良い評判を得るには時間がかかるが、悪い評判は一瞬で伝わる。そして現定住者に心から他者を迎え入れる考えがなければ、移住定住は失敗する。全国の若者に働きかけるなら他県他市との競争になるが、現定住者に働きかける場合は、自市に集中して魅力づくりができる。

これらの事をふまえ、現定住者が住みやすい市こそが、若者も定住したくなる市。若者定住の基準は、定住している全市民の生活の様子。移住する際には現在の定住者の受入体制が必要である事を踏まえ政策を考えていただきたい。

最後に文章内で少し触れたが、無理を承知で記載する。市職員が全員滝沢在住だったら。これ程力強いことはない。まずはそこから始めてみてほしい。無理なら同じ理由で若者も無理と答えると思った方がよい。失敗に終わっても現実的な課題が見つかるはずである。

私も地方公務員として県内3市町村で働いたが、そこに住む、住まないで住民の反応は大きく違った。滝沢は広く、自治会ごと、それ以上に多数のまとまりがある。それを理解し共に成長していくためには、そこに住み、自ら地域活動に参加することが一番の近道である。もっと言えば役所周辺ではなく、滝沢市内各地に定住する職員がいることが理想である。

市職員＝滝沢定住者。

島のような隔離空間ではなく、近隣に住みやすい市があるのに関わらず、これができたらそれだけで1つのアピールポイントになるのではないだろうか。

## ・個人的な思い

例えば、大学生のほとんどは、引っ越してすぐに滝沢市に不便を感じる。市役所に行くための苦勞のせいである。車生活に慣れた人には分かりませんか？1年生から車生活をしている学生の数を調べたことありますか？そして、それを払拭する機会はないまま卒業していく。滝沢へのイメージはマイナスから始まっていると考えたことありますか？引っ越す前段階としても、盛岡には学生用の安いアパートがある。周辺施設もしっかりしている。滝沢は？大学が近い？バイトのために盛岡に行くなら盛岡に住んだ方がよい。若者目線で考えるなら、表面上のアンケートや良い子の意見ではなく、本気になって考えてください。無理なら中途半端な考えで決めつけず、職員全員市民化計画の方がよいです。よろしく願いいたします。

○滝沢市保育協会（回答10名）

提言1 若者定住に向けた「滝沢を知り、愛着を持ってもらう」ための機会創出を図ること  
(総務教育分野)

- ・老若男女問わず楽しめるテーマパーク（温泉付？）のような中に「滝沢を知り、愛着を持ってもらう」に近づけるアトラクションを取り入れることで、自然と親しめる、また何度も足を運ぶことで魅力を感じられるのではないかな。
- ・シャトルバス運行
- ・総合運動公園、ビッグルーフと整った施設はあるものの、催し物があれば子どもには必ず保護者が付き添うので、盛り上がるがその時のみになりがち。常に安定して楽しめる場を。（平日は若者は仕事でも、年配の方々の集いの場）
- ・滝沢の雄大な土地をうまく活用していく。（盛岡には厳しい）
- ・若者が滝沢市に愛着をもてるためにも、既存施設の充実も大切なのではないかと考えます。例えば、お山の湯の復活や滝沢市総合公園内のアスレチックの修復、外山地区の学習林の整備などを行い、小中学生等が思い切り遊び、たくさんの体験をして思い出をもった若者がそのまま定住して次の世代につないでいくことで、次世代につながる定住になるのではないかと思います。
- ・滝沢の自然を活かした施設（森林公園他）を増やすことで、野外活動の充実につながるのではないかと思います。
- ・「若者定住課」の設置は、とてもよいと思う。
- ・自分達（若者）が参画することで、滝沢市への愛着がより深まり様々な取り組みも積極的に行ってくれると思う。
- ・メディア時代を育ってきた若者を見て感じることで、出会いの場がコロナ渦ということもあり人とコミュニケーションをとる場も少ない。人との出会いや楽しい、嬉しい、感動等の体験を設けることで、家族や職場、学校以外の人とのコミュニケーション（平成30年のタキザワコレカラカイギのような場）を図る力の向上を期待したい。
- ・滝沢市を盛岡市のベットタウンと表記、発言する市民がいるが、これでは滝沢市は伸長しない。
- ・愛着と定着は切り離して考えたほうが良いと思う。愛着は定住の理由としての割合は低いのではないかな。やはり、定着するには、一人ひとりが感じる利便性メリットが必要。それには、年代、世代、職業などによってニーズが異なり、整理する必要がある。万人にマッチすることは不可能であるのだから、どこにターゲットを絞り実施していくのか。それには近隣の市町村と同等か負けにくいものが必要。
- ・滝沢を知る機会の創設では、よく目にするバスツアーは、その時参加した人で終わり、広がりを感じられない。それよりは、企画力を持った情報発信によって興味をそそられることで自らが出向くというように、人々の行動を起こさせることが大切なことだと感じる。たくさんの行動が起きた時、自然と活性化しコミュニティが生まれ、そうなれば必然と情報は拡散する。今はそういう時代ではないかな。現代にマッチした企画が必要と感じる。
- ・滝沢の歴史などは、学校教育や課外活動の中で取り組み、知る機会をつくり「愛着」に繋げて行く意味はあると思う。自分の住んでいる滝沢に魅力を感じられることで、どこに行っても「誇れる」「語れる」につながりいろんな人に興味関心をもってもらえるきっかけとなる。しかし、それが定着になるかといえば弱い。やはりさらにメリットという魅力は重要であると考えます。

- ・歴史や希少価値ではない滝沢の魅力を創出することも必要では（チャグチャグ馬コ、スイカ、りんごの他には？）。
- ・幼・保・小・中・高と過ごす18年間の間にしっかりと地元への愛着が持てるよう、学校等のカリキュラムの中に地元行事などを取り入れて体験させてはどうか（馬コまつり等）。教育委員会を巻き込むことが大事だと思う。
- ・中学校での合唱を発表する場を増やしてはどうか。
- ・「カワシンジュガイ」の生息地だとは知らなかったが、魅力のあるものかはよくわからない。
- ・滝沢の若者だけが多忙なのではない。日本全国若者は多忙だが、魅力がもっとあれば地域に親しみを持ち愛着も沸く。多忙だから関心を持っていないのではない。子育てで忙しいならその手立てをもっと考えればいい。子育てヘルプボランティアとか。文章を読んで「多忙な若者」の印象が強く残る。
- ・小中学校の授業の時間を確保し、学校・企業・行政が一丸となって職場体験程度でない直接職業と結びつくようなキャリア教育を進める（例えば長期休みを利用したインターンシップ「農家1週間体験」とか）。
- ・大学、高校もたくさんあり、人口も多いので小中学校もたくさんある滝沢が特色なのに、思うように横のつながりが薄い。
- ・子育てにやさしくない。

## 提言2 若者定住に向けた保育環境の充実を図ること（環境厚生分野）

- ・養成校の設立・・・現在も大学、短期大学はあるが、更に大学、短期大学、専門学校等の設立により、若者が集まるのでは？
- ・職に就きたくなるような待遇確保・・・宿借り上げ、奨学金制度等、園独自の補助ではなく、滝沢市内の法人に対して補助する事で、学生（若者）の就職先の選択肢が広がるのではないかと。
- ・休日保育の負担軽減・・・現在大釜、保育協会（2園）の3園のみ休日保育を行い、祝日等は人数も多い中で、協会内の園児以外の利用も多く、むしろ協会内の園児受け入れを断ることになりがち。職員の負担も大きい。平日の振替休日を入れることで年次休暇の消化も難しい。休日専門職員もなかなか見つからない。「働きやすい職場」を作りたくても「大変な職場」になりがち。職離れにもつながる。休日保育を市で取り組むことはできないか、もしくは他園での休日保育受け入れもしてほしい。
- ・保育士宿借り上げ支援事業の充実や保育士奨学金返還支援の事業は、在職の保育士からもとてもありがたい事業だという話をきいております。今後も継続して頂きたいと思うと共に、より就活生へ発信を強化していただき、保育士の確保に努めて頂きたいと思います。
- ・市内でも若者の居住地区に偏りがあるのではないのでしょうか。それもあり、盛岡市に近い園や交通等の便の良いところに立地の園に入所希望されている方が多いように感じます。小規模保育園を新設するというより、定員数に満たない園への入所が進むような取り組みはいかがでしょうか。
- ・就活性を対象とした園見学バスツアーが、保育士の確保につながっている部分もあると思いますので、今後も継続して頂きたいです。
- ・変わらず待機児童は多いようなので、教育保育施設の定員を増やしたり、そのための各施設の見直しや補助金等について考えられれば良いと思います。
- ・「保育士の確保」については、私達保育園側にとっても大きな課題の一つである。確保した保育士が職場に定着、滝沢市に定住できるよう情報・意見交換ができる場を多く設けていくことができ



ばよいのではないか。

- ・保育士確保について、子育て世代の潜在保育士を含めて働けるための住居等の支援を含めた充実を期待したい（大学等の奨学金の制度 etc）。
- ・保育園がすべて民営であることから、より市独自の財政支援を希望します。
- ・ターゲットは子育て世代の保育環境であるが、待機児童をなくすることだけが目標ではなく、地域全体で子育てしやすく、子育てにやさしい環境にしていくということも必要ではないか。例えば、商工会とタッグを組んで考えていくなど。子どもと一緒にいろんな場所で気兼ねなく利用できたら子育てしやすい環境となっていくのではないか。子育て世代は、暮らしやすい環境を選び定住につながるのではないかと感じる。現在のメリット、デメリットはアンケート等で把握していると思うので、もう一步踏み込んだアクションが必要だと感じる。
- ・小規模保育所の設置には議論が必要。少子化も見据え、長い期間の開設とはいかないのではないか。しぼんでいく事業に法人として投資するにはリスクが大きい。どの程度支援していただけるのか。
- ・保育士確保は、困難を強いられている。採用試験を行っても応募者が少数。新卒者の受験が本当に減っている。
- ・宿舍借り上げはとてもありがたい制度だと思っているが、地元の人が地元でアパート暮らしをする場合に、その制度が適用されないところには不公平感はある。地元定着を支えるうえでも検討していただきたい。
- ・現在の学生のほとんどが、奨学金を利用している。奨学金返済支援として補助をしていただくことはメリットであると思うが、滝沢市で、5年以上勤務で返済免除するというような奨学金制度の創設など思い切った施策の方が、効果があるのではないか。
- ・中高時代に保育体験の機会をつくり、進路を考えるうえで早い時期から幼児教育への関心を持ってもらいたい。
- ・地元の大学生に向けて、滝沢市内の保育施設への就職が増えるよう「就職祝金」等の創設を考えてはどうか。
- ・家庭で子育てしている世帯の人が気軽に集まったり、困ったときに預かってもらえる場所を地域ごとに作ってはどうか（社協のファミサポのようなところ）。
- ・小規模保育所の開設により、1歳での育休復帰に向け解消される部分も多いと思うが、3歳以降の受け入れ先も困らないように支援してほしい。
- ・待機児童解消に向けた保育士確保の対策はよいと思う。保育士養成校がある滝沢市の強みを生かした対策をしてほしい。ただし、保育環境の充実が待機児童解消のみなのが残念。もっと広く子育て支援が必要。
- ・奨学金は、盛岡市と同等又はそれ以上の思い切った支援、施策がないと保育士確保にはつながりづらい。しかし、学生にとっては、重要なポイントであり、滝沢として打ち出してほしい。
- ・処遇は滝沢市の補助（全額）として実施してほしいが、同じ法人内で他の職員との均衡をとるのが大変。
- ・宿舍借り上げは、求人に謳ってこれに魅力を感じて来た人はいない。
- ・ICT化は実効性のある開発スピードに期待したい。
- ・もっと具体的な取り組みがあったほうがいい。例えば、保育士確保については、宿舍借り上げ助成金以外に、保育士等奨学金返済支援事業としての補助金、定着支援一時金給付事業として1か月1人2万円の補助を5年間出す等働く意欲を持たせる。

- ・小規模保育事業所を増やすとあるが、保育環境の指導まで行政でしっかりやるのか不安。受け皿があればいい・・・というのはどうだろうか。
- ・具体的に滝沢市で保育士確保を目的にした魅力的なホームページをつくり、誰もが気軽にみられて、滝沢市で働きたいと思ってもらえるようにする。Uターン保育士さん確保にもつながり、ぜひ各園への保育士確保へつながってほしい。
- ・バスツアーは、希望者を募るのは参加者がなかなか集まらないと思うので、学校単位で大勢に参加してもらえよう行政と大学、短大、専門学校をうまく巻き込んで進める。

### 提言3 若者定住のための生活基盤と産業基盤の整備について（産業建設分野）

- ・提言（1）、（2）の実現に伴い、就労、定住につながるのではないか。
- ・空き家対策として、具体的に一軒家を借りる場合の金額提示等をして、空き家の再生や利用を進める。田舎暮らしでの子育てに魅力を感じるよう、自然に触れられる公園や子育て施設や公園の充実をしてはいかがでしょうか。
- ・子どもが探検して楽しめるイベントの実施や、今まで行っている良い取り組みをネット等での発信をさらに進めるのはいかがでしょうか。
- ・交通の便があまりよくない地域もあり、定住が進まない部分もあると感じます。コミュニティーバスを導入するとか、お買い物ツアーを実施するなどして、若者だけでなく、高齢者になっても住み続けることができる(未来も住み続けたい)と思える市になってほしいと思います。
- ・就職につながる施設の増加や施設環境の整備、若者の就労のための上位者の研修等の充実。
- ・空き店舗、空き家を小規模保育事業だけではなく、様々な事業で活用できればよいのではないか。空き店舗、空き家も有効活用でき、スペースを貸したい人は副収入が入り、借りたい人は低賃金で借りられることで、双方メリットがあると思う。そこから地域の活性化にもなり様々な輪も広がり、若者の定住へつなぐきっかけとなるのではないか。
- ・買い物や医療、福祉等の生活サービスやニーズ把握、総合相談及び交流場所などのサービス提供。
- ・若者が滝沢の歴史を学び、国際的に発信していく方途を工夫してほしい。
- ・美しい建物に都市景観賞を考えましょう。
- ・ぜひ柔軟な考えで、滝沢市すごい！いいね👍の声が聞かれるような思い切った施策を期待します。
- ・大学で学んでいる学生がたくさんいるのに、仕事先がないのが現状。まずは企業の誘致を進めてほしい。
- ・IT関連の業務は、どこでもできることから、イノベーションセンター内もそうだが、自然豊かな場所の提供等、誘致に力を入れてはどうか。
- ・車社会であり、若者はみな免許を持っているとは言え、滝沢市内は公共交通機関が整備されておらず、地域によっては不便なところもありマイナスイメージである。
- ・子育て家庭で、必要な時に足がない場合の移動手段としてタクシーの割引制度などあってはどうか。
- ・委員会等に積極的に今まで以上に市在住の若者も入り、話し合いをした方が良いと思う。
- ・分譲住宅地の確保と購入金額の助成・・・滝沢市に新築すると50万円の補助がでるとか、税金が半額とか、若い子育て世代はお金がない。補助があれば滝沢市内へ家を建てる人も増える。家を建てる＝長期の定住につながるいいチャンス。「若者定住課」より「若者住宅推進課」があるとよい。農地が多いので網？を外し、住宅地を多く確保する。滝沢市役所前の田園を早期に住宅地へ進める。
- ・盛岡市のベットタウンなんて思っていること自体滝沢市としての独自性が低い。大きな企業や大規

模な商業施設を誘致し、その周りを住宅地とし「まち」「ひと」「しごと」の総合戦略、若者が「夢のあるしごと」「生きがいのあるまち」「子育てにやさしいまち」と思えるような街づくりをしてほしい。

#### その他 全体を通してのご意見等ございましたら、ご自由にお書きください

- ・提言（１）（２）（３）は切り離せないと思う。住み心地が良い環境は、交通の便が良い、近隣にスーパー、病院があること、学校等があることで選択すると思う。上記にも記したが、シャトルバスの運行等（滝沢市内）があると行動範囲が広がると思う。
- ・他の市町村にはない、子育て世代の“特権”とか“保障”みたいなものを行なってはいかがでしょうか。一時的なものではなく、「これがあるから滝沢市に住みたい」と思えるようなものが若者たちは魅力を感じると思います。
- ・宿借り上げ等の取り組みをしていただいたことによる就職、定住につながっていると思います。今後も市内の様々な機関とのやり取りで若者の定住を含め、滝沢市の繁栄につながればよいと思います。
- ・若者定住への提言に加えて、年配の人々の誇りある生活ができることも考えてはいかがでしょうか。
- ・園児給食費全児童の全額補助を希望します。近隣市町村がやっているの、これはぜひお願いしたい。
- ・世の中の流れに対してアクションが遅いと思う。
- ・子どもたちが成長し、地元を離れたとしても、いつも帰ってきたい心のふるさと＝滝沢と思える街づくりをしていただきたい。
- ・若者定住課を設置する際は、ぜひ若い人が「我が事」として仕事に取り組めるような人事配置を望む（学生をアルバイトに入れるなど、また、20代30代の人を中心に人事配置をするなど）。
- ・提言（１）（２）（３）ともはっきりとした具体的な内容が見えない。少し強引でも直接何をするのか打ち出してほしい。
- ・若者定住課の創設に際し、しっかりとしたコンセプトと熱意が必要。
- ・このような機会を持ち現場（法人）の声を吸い上げていただき感謝するとともに、少しでも前進していくことを願いたい。
- ・これからの滝沢市を支えていく子ども・若者にもっと心とお金をかけてほしい。他市町村はここぞという時、エンジョイパスポート等市町村の予算を惜しみなく出して、損したように見せて、実は経済を回している・・・ということもしている。目先のことだけ考えず、ちょっと先、そして将来を見越した事業を考えてほしい。
- ・「さすが！滝沢市は違うね👍」と滝沢市住人や他市町村から思われるまちになってほしい。

## ○滝沢市PTA連絡協議会（回答8名／12名中）

### 提言1 若者定住に向けた「滝沢を知り、愛着を持ってもらう」ための機会創出を図ること (総務教育分野)

- ・小中学校の連携は今までもあるが、高校、大学との連携（高校、大学との交流等）が少ないことから、高校、大学での授業内容、学校生活等の知識が乏しいことがあるため、交流等を増やしてみてもどうか。
- ・滝祭（産業まつり）等のイベント来場者からアンケートを取るようにはどうか。
- ・私は柳沢の自然の多さが好きで、ここで子供を育てたいと思いました。ゆったりとした環境の中で、のびのびと子育てできました。しかし、柳沢には子供たちが遊べる場所がなく、公園もありません。高校生になった時の通学も大変です。小中学生の人数も減っています。愛着はあっても不便な環境では定住は難しいです。
- ・滝沢の魅力を知ってもらうためにSNS等で発信することはもちろんですが、若い世代の意見をどんどん吸い上げるためにも、SNSを活用していけばいいと思う。インスタグラムやLINEなどでは簡単にアンケートに答えられるような機能もあるので、そういうものを有効活用するべきだと思う。
- ・私自身の経験から学生時代に触れ合った歴史や文化の物の中で、楽しかったなどの思い出になっていることは我が子にも経験させたいと思っています。なので、小中学校での様々な体験はとても重要であると考えます。ただ現状では滝沢市の歴史や文化について、子供たちは小中学校では勉強として触れ合うことはあっても、他県、他市から移住してきた大人からすればあまり知る機会もなく、勉強してきた子供との共有もないので、親子で滝沢市への愛着を持つ機会を作るのは容易ではないと思います。なので、親子で参加し体験できる取り組みや行事があれば良いと思いました。
- ・各地域の自治会の地区清掃等の参加、スノーバスターの参加等、小中学校への参加要請がありますが、大人目線からの依頼ではなく、もっと子供たちが楽しく参加できる企画等必要だと思います。その中で若者定住課の設置は良いことだと思いますが、そこは若い人がメインで子育てに従事している人を置くことが良いと思う。
- ・地域づくり活動に参加していないのは、面倒だからだと思います。また、いつも同じ人しか参加しません。埋蔵文化財センター等も興味を持つ方が少ないと思われる。レジャーやスポーツ施設整備、子供を連れて遊べる場所があればいいと思います。
- ・若者とは何歳までか？他地域からの移住者の若者は対象外か？

### 提言2 若者定住に向けた保育環境の充実を図ること（環境厚生分野）

- ・高校の学校見学（オープンスクール）があるように、保育施設等を巡る、施設を知ること賛成である。
- ・保育士の低賃金の問題を解決しなければ、先に進まないのではないかな。
- ・滝沢市はベッドタウンなわりに保育園の数も少なく、先生の空きもなかなかないと思います。保育園もそうですが、学童にも目を向けて保育園の先生のように学童の先生にも保育協会のような会を作ってあげてはいかがでしょうか。
- ・保育士の確保ももちろん必要だが、離職していく人を減らす対策も必要だと思う。若い世代に支援や処遇の良さで滝沢市の保育士になってもらうのではなく、保育士の仕事は結婚して出産しても当たり前に勤められる魅力的な仕事だということを知ってもらうべき。その上で、滝沢市が行ってい

る若い保育士に対しての支援や処遇について周知していくべき。

- ・保育施設には保育士の方が何より必要だと思いますが、現実的に若い保育士の方が一人暮らしをしてまで働いて、滝沢市に居住するほど多くの賃金をいただいているとは思わないし、そこまでの魅力がなければ他市や実家から通う選択をすると思うので、保育士確保に向けてもう少し若者が興味を持てる取り組みが必要だと思う。
- ・知り合いの保育士は、自宅へ仕事を持ち帰りしています。ハード・ソフト面も大事だと思いますが、保育士の待遇についても考えていかなければならない問題だと思います。
- ・保育環境については、問題ないと思います。それよりも小学生になってから習い事をさせてあげられなくてかわいそうな思いをさせました。学習塾も近場になく、共稼ぎのため送迎できないです。大学進学を考えての子育て支援に取り組んでほしいです。
- ・十分期待したい。

### 提言3 若者定住のための生活基盤と産業基盤の整備について（産業建設分野）

- ・高校で将来をだいたい決定していること、進路決定することを踏まえ、高校生へのアピール（1年生へのアピール）を増やし、将来、滝沢で定住の意識を持たせていくのはどうか。
- ・何を目玉となる政策にするか重要である。
- ・仕事をする、生活をする、学生生活を終えた時に帰ってこようと思えるような場所がないと思います。せっかくリサーチパークもあるのですが、あまり発展してないように思います。北上のようなたくさんの人が働いて生活できる場所が必要です。
- ・「空き家対策推進事業」など5つの事業内容はとても素晴らしいと思う。そして、それぞれの取組の経過や結果をどんどんSNS等で発信して、滝沢市は住みやすい所だということをアピールしていけば良いと思う。定住し続けてほしいのであれば、交通の便を良くするか、ある程度の年齢以上の方にはタクシー券を配布するなどして、移転を防ぐべきだと思う。
- ・市内には複数の大学があるにもかかわらず、若者定住につなげていけないというのは、今までのアピール等が若者に届いていないと思います。政策やアピールをするべきは必須であって、その内容等をもっと詳しく提示して頂きたかったです。
- ・地元根付いた企業を育て、そこに就職したいと思う基盤をつくる必要があります。また、ベッドタウンと言っても、地域に娯楽や買い物等人が集まるところが少ない、そういった場所づくりも市が手掛けなければ、若者が離れていくだけだと思う。
- ・教育環境の充実が必要だと思います。スポーツ強化、大学進学までのサポート（滝沢市の子供の大学進学率70%）等の環境があれば、他市町村から移住、両親とも大卒の家庭の移住があると思います。滝沢市出身の世界で活躍する子供がいる町は魅力があります。
- ・滝沢を盛岡等のベッドタウンと捉え、保育、教育の充実した土地に発展することを期待する。

### その他 全体を通してのご意見等ございましたら、ご自由にお書きください

- ・今後の滝沢の発展のため、ご協力いたします。よろしくお願ひします。
- ・表や調査経過が見やすかった。
- ・滝沢市がもっと子育て世帯に優しくなることが若者定住につながって行くのではないのでしょうか。
- ・大人だけの意見だけではなく、小中高大の学生等とも交流をし、その中でいろいろな意見を聞

き、若者定住に向けた取り組みを行ってください。そして、意見を聞くだけでなく、ちゃんと実行に移せるようお願いしたいです。

- 普通の生活をしていると、地域、学校、行政にかかわる機会がありません。私もPTA会長をして、いろいろな方々達が活動しているのに気が付きました。半ば強制的に参加してもらう取組が必要と思います。それには、勤め先の会社の理解が必要です。会社からの命令であれば参加せざるを得ません。会社側のメリットを市が提示すれば、父親たちの授業参観、PTA活動、スクールガード、各自治会等へ参加すると思いますし、平日の活動もしやすいと思います。会社側のメリットの一つはポイント制度です。興味があれば連絡ください。